

TOYOTOMI

高圧力型石油給湯機付ふろがま(温水ボイラー)

トヨトミホームボイラー

型式 WS-44HE (MG)

ダブルエス エッチイー エム シー

[屋外用開放形]
[減圧弁・逃し弁内蔵形] [ステンレス外装]

型式 WS-44HE (S)

ダブルエス エッチイー エス

[屋外用開放形] [ステンレス外装]

型式 WS-44HE (F)

ダブルエス エッチイー エフ

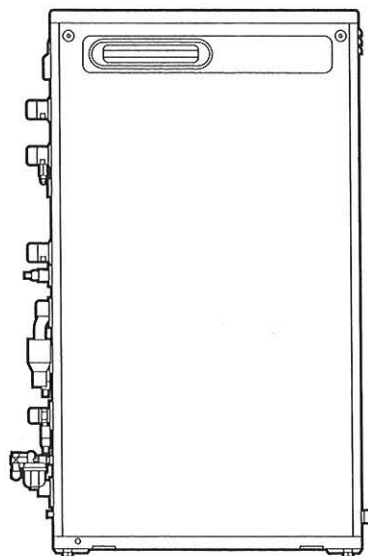
[屋内用強制排気形]

型式 WS-44HE (FF)

ダブルエス エッチイー エフエフ

[屋内用強制給排気形]

取扱説明書



このたびは本品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書、保証書及び別冊の工事説明書を読んで、正しくご使用くださいますようお願い申し上げます。

取扱説明書、保証書、小型ボイラー明細書及び別冊の工事説明書は大切に保管しておいてください。

- この給湯機は、家庭での使用を目的とした製品です。事業所や業務用としては使用しないでください。



目次




1	安全のために必ずお守りください	1 ~ 6
2	各部のなまえ	7 ~ 14
3	使用前の準備	15 ~ 19
4	使い方	20 ~ 36
	運転方法(給湯)	20 ~ 21
	給湯温度調節の方法	22 ~ 24
	給湯量と給湯温度の早見表	24
	給湯量お知らせ機能を使ってお湯はり(給湯)する方法	25 ~ 26
	お風呂を沸かす方法(沸きあげ保温運転のしかた)	27 ~ 28
	お風呂の沸き上がり温度の変えかた	29
	お風呂の保温時間の変えかた	30
	おいだきのしかた	31
	凍結予防	32 ~ 34
	使用上の注意	35
	長期間使用しないとき	36
5	安全装置	36 ~ 37
6	その他の装置	37
7	日常の点検・手入れ	38 ~ 40
8	定期点検	40
9	故障・異常の見分け方と処置方法	41 ~ 44
	故障の原因と処置方法	41 ~ 42
	故障かなと思ったら確認していただきたいこと	42
	故障かなと思ったらここを調べてください	42 ~ 43
	リモコンの警報(エラー)表示による故障診断	43 ~ 44
10	部品交換のしかた	44
11	仕様	45 ~ 46
12	アフターサービス	47
13	据付け	48 ~ 49

1 安全のために必ずお守りください

- お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
- ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

 警告 (WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 注意 (CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

	この絵表示は、「禁止」されている内容です。
	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

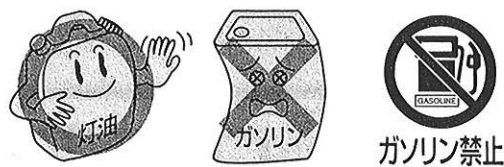
- 説明文中の「お願い」事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

警告 (WARNING)

ガソリン厳禁

★ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。

- 火災の原因になります。

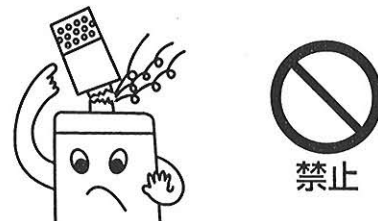


排気筒外れ危険

WS-44HE (S)

★排気筒が外れたままで使用しないでください。

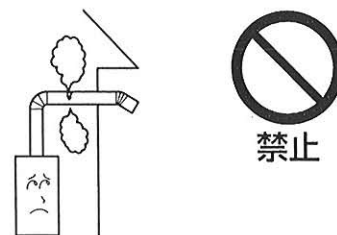
- 外れていると危険です。



WS-44HE (F)

★排気筒及び排気筒トップが外れたままで使用しないでください。

- 外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



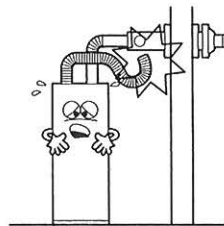
1安全のために必ずお守りください

警告 (WARNING)

給排気筒(管、ホース)外れ危険

WS-44HE (FF)

- ★給排気筒(管、ホース)が外れたままで使用しないでください。
- 外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



排気口の閉そく危険

WS-44HE (MG)

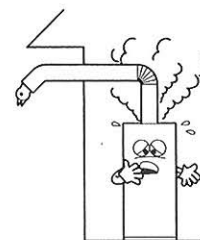
- ★排気口がふさがれたままで使用しないでください。
- 不完全燃焼や火災のおそれがあります。



排気筒の閉そく危険

WS-44HE (F)

- ★排気筒(排気筒トップ)がつまったり、ふさがれたままで使用しないでください。
- 閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



給排気筒トップ閉そく危険

WS-44HE (FF)

- ★給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。
- 閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



注意 (CAUTION)

家庭用以外の使用禁止

- この給湯機は、家庭での使用を目的とした製品です。
事業所(店舗、事務所、工場等)や業務用としては使用しないでください。
また、高圧力型の減圧弁や逃し弁を0.1MPa以下で使用する給湯機(簡易ボイラー)に使用しないでください。
- ※万一、事業所や業務用に設置する際は、所轄の労働基準監督署および消防署への届出やその他の義務づけがあり、家庭用とは異なる規則の対象になります。
(同梱の「小型ボイラー明細書」は労働基準監督署に設置届を提出する際、必要になりますので、大切に保管してください。)



1 安全のために必ずお守りください

⚠ 注意 (CAUTION)

高温部接触禁止

- ★ 燃焼中や消火直後は、高温部、排気口、排気筒、排気筒トップ(給排気筒トップ)に手などふれないでください。
- やけどのおそれがあります。



高温注意

- ★ シャワーを使用する場合は、手でお湯の温度を確かめてから使用してください。
- やけどのおそれがあります。



- ★ お風呂(特にシャワー)の使用中は絶対に使用場所以外のリモコンで給湯温度を変更したり、「運転スイッチ」を押して「切」にしたりしないでください。
- やけどのおそれや、急に水になって思わぬ事故の原因となります。

- ★ 入浴するときは、手で湯温を確かめてください。
- やけどのおそれがあります。



- ★ お湯の出し始めや、お湯の量を急に少なくして使ったときは、一時的に熱いお湯が出ることがありますので注意してください。
- やけどのおそれがあります。



- ★ 循環口のまわりは高温になりますので注意してください。
- やけどのおそれがあります。

- ★ 「給湯温度調節スイッチ」にて設定した温度で、お湯を使用しているとき(特にシャワー使用時)は絶対に「沸きあげ保温運転」、「おいだき運転」のスイッチを押して「入」にしないでください。
- 設定表示が「80℃」(最高設定)になり、やけどのおそれがあります。

- ★ ふろ運転(「沸きあげ保温運転」、「おいだき運転」)を終了した後、設定表示は「80℃」からふろ運転前の設定に戻りますが、しばらくの間は設定温度より熱いお湯が出ますので注意してください。この時約5秒間ブザーがなり、設定表示は現在の給湯温度の目安を点滅表示します。
- 熱交換器内のお湯はすぐにはふろ運転前の設定温度まで下がりません。やけどのおそれがあります。

可燃物禁止

- ★ 給湯機の上や周囲に燃えやすいものを置かないでください。
- 火災のおそれがあります。



↑安全のために必ずお守りください

1 安全のために必ずお守りください

⚠ 注意 (CAUTION)

引火性危険物禁止

- ★給湯機の周辺にガソリン、シンナーなどの危険物を置いたり、使用しないでください。また、可燃性ガスの発生する所では使用しないでください。
- 火災のおそれがあります。



禁止

囲い禁止

- WS-44HE (MG)・WS-44HE (S)
- ★給湯機や排気筒及び排気口を波板などで囲わないでください。
- 不完全燃焼や火災のおそれがあります。



禁止

分解修理・改造の禁止

- ★故障、破損したら、使用しないでください。
- 不完全な修理や改造は危険です。



分解禁止

異常時使用禁止

- ★万一異常を感じたときは、使用しないでください。
- 異常燃焼のおそれがあります。



使用禁止

電源コードを傷めない

- ★電源コードを傷付けたり、束ねたり、無理な力を加えたり、物をのせないでください。電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
- 電源コードが破損し、火災や感電の原因になります。



禁止

電源プラグは確実に差し込む

- ★電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。(また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。)
- 火災の原因になります。
- ★ぬれた手でプラグの抜き差しはしないでください。
- 感電の原因になります。



指示

外出するときは、「運転スイッチ」を「切」にする

- ★外出するときは、必ず「運転スイッチ」を押して「切」にしてください。
- 予測できない事故がおきることがあります。



指示

⚠ 注意 (CAUTION)

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く

★長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜くとともに、機器内の水抜き処置をしてください。

(32～34ページ **水抜きによる方法** 参照)

●火災や予想しない事故の原因になります。

★再使用する場合は給水元栓をあけて、すべての給湯蛇口から水が出ることを確認してから、電源プラグをコンセントに差し込んで、「運転スイッチ」を押して「入」にしてください。



電源プラグを抜く

電源プラグのお手入れをする

★ときどきは電源プラグを抜き、ほこり(及び金属物)を除去してください。

●ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。



指示

お願い (NOTICE)

循環口フィルターは必ずつける

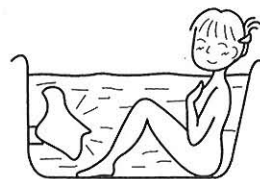
★循環口フィルターをはずして使用しないでください。

●機器の故障の原因になります。

浴槽の循環口をふさがないで

★浴槽の循環口をタオルや手などでふさがないでください。

●循環ポンプの故障の原因となります。



指示



禁止

浴室の掃除の注意

★塩素系のカビ洗浄剤や酸性の浴室用洗浄剤、消臭剤または塩分などが、機器やふろリモコンにかかった場合はすぐに十分な水洗いをしてください。

●事故や故障の原因になります。



注意

入浴剤の使用の注意

★硫黄・酸・アルカリを含んだ入浴剤や洗剤は、熱交換器が腐食する原因となるものがありますので入浴剤のご注意文を充分ご参照ください。



指示

お願い (NOTICE)

みだりに飲用に用いない

- ★給湯機の水やお湯を、みだりに調理や飲用に用いないでください。
- 配管材料の劣化、水あかなどにより水質が悪くなる場合があります。



禁止

リモコンの取扱いの注意

- ★リモコンのスイッチをむやみに押さないでください。
とくにお子様のイタズラに注意してください。
- 事故や故障の原因になります。



禁止

リモコンに水をかけないで

- ★ふろリモコンは防水タイプですが故意に水をかけないでください。
メインリモコンは防水タイプではありませんので水をかけないようにしてください。
- 事故や故障の原因になります。



禁止


点検・手入れの実施

- ★給湯機を使用する場合は、日常の点検・手入れはもちろん、必ず2年に1回程度、定期点検を受けてください。
- 故障も少なく、給湯機が長持ちします。
- ★作業の際は、手をけがしないように、手袋をはめてください。



指示

太陽熱温水器の使用上の注意

- ★太陽熱温水器と接続した場合、設定温度より高温の湯が出る場合があります。
太陽熱温水器からの入水温度が設定温度より高い場合は給湯機の故障ではありません。
お湯の使用には充分注意してください。
また入水温度が高い場合にはリモコンの警報表示「」が点滅して給湯機が消火することがまれにあります。この場合はしばらく待ってから「運転スイッチ」を押し直し給湯温度設定を低くして使用してください。

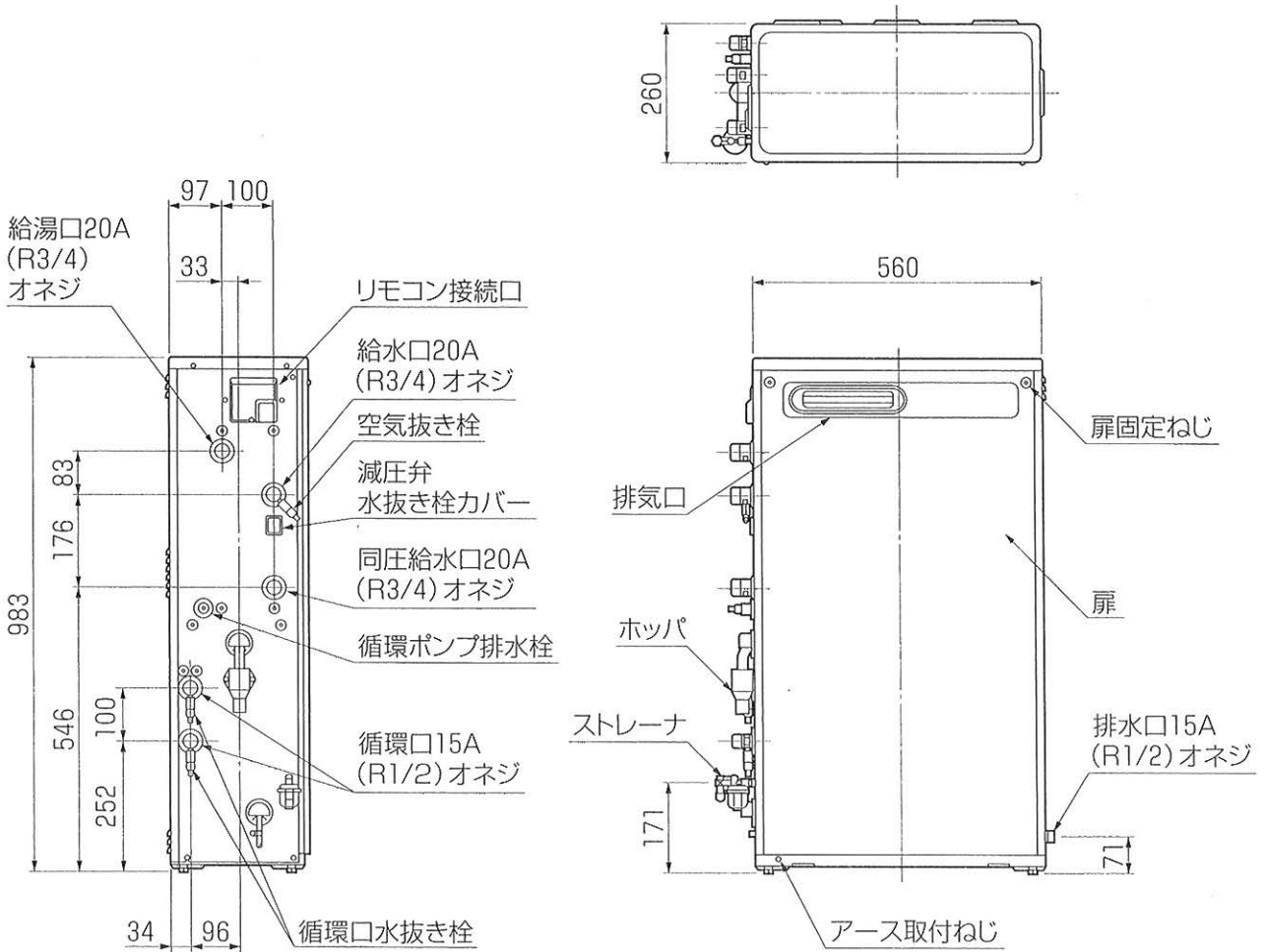


注意

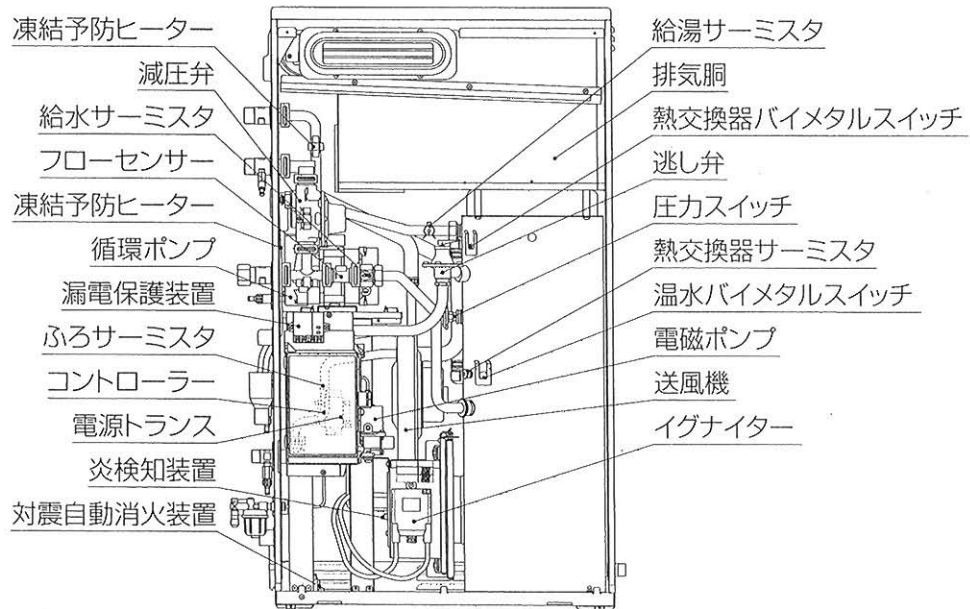
2 各部のなまえ

WS-44HE (MG)

●外観図



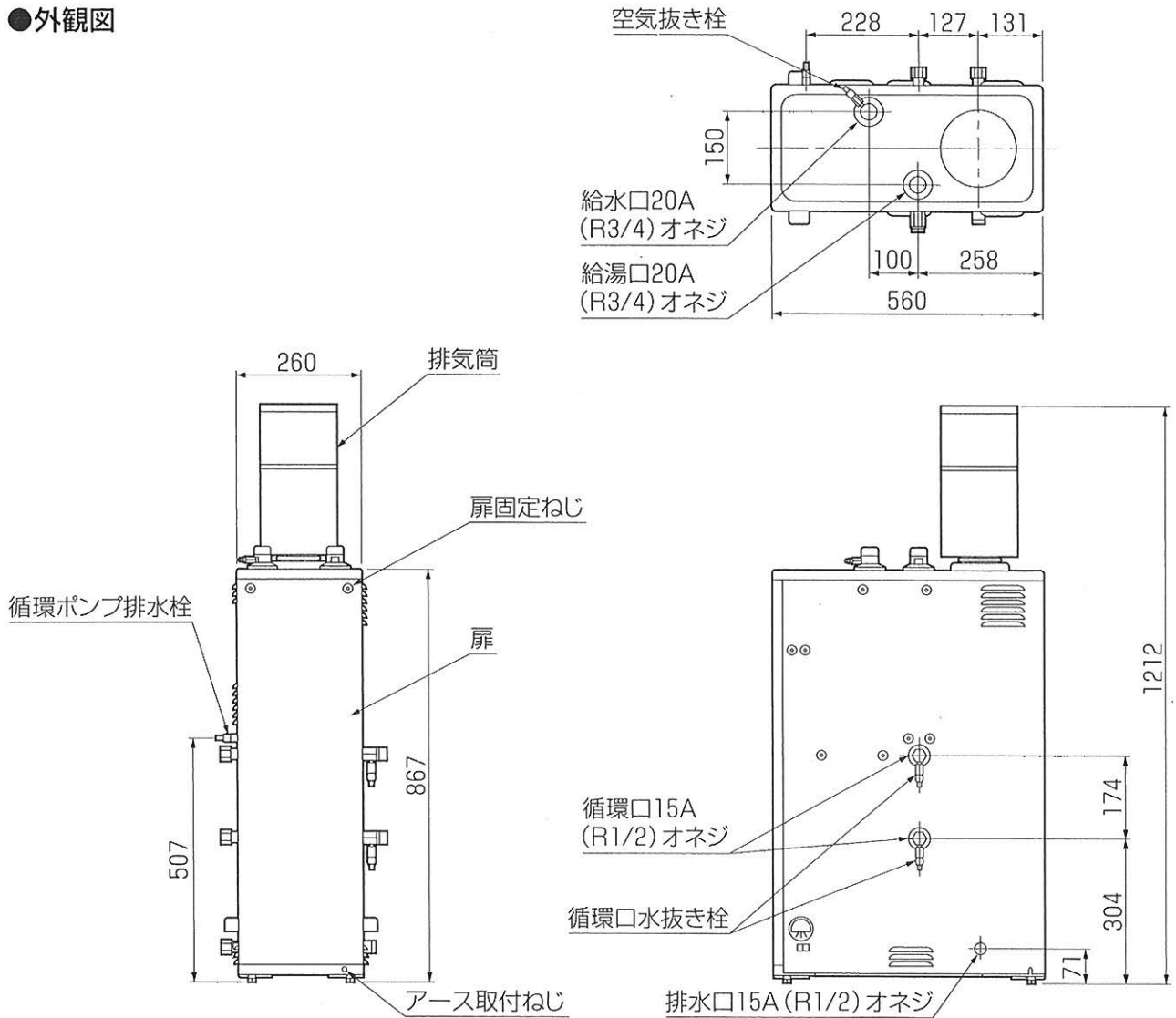
●構造図



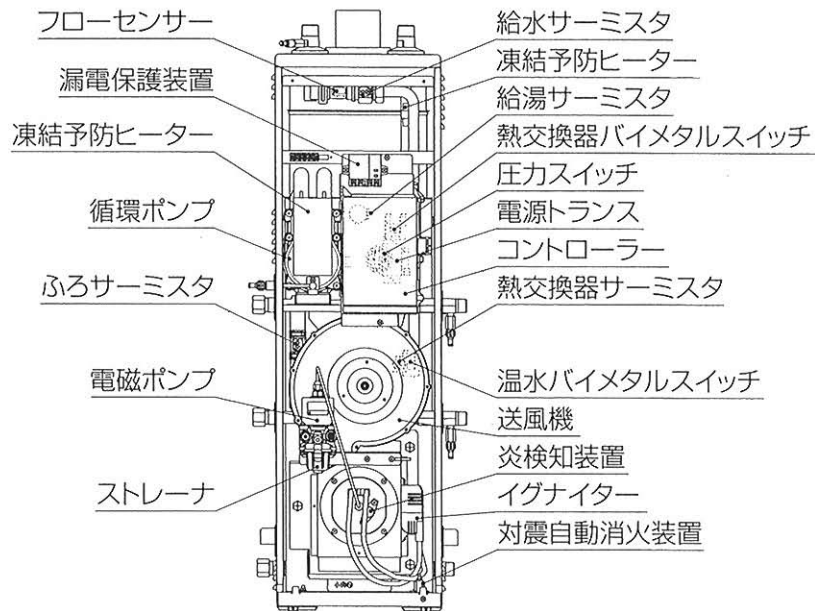
2 各部のなまえ

WS-44HE (S)

● 外観図



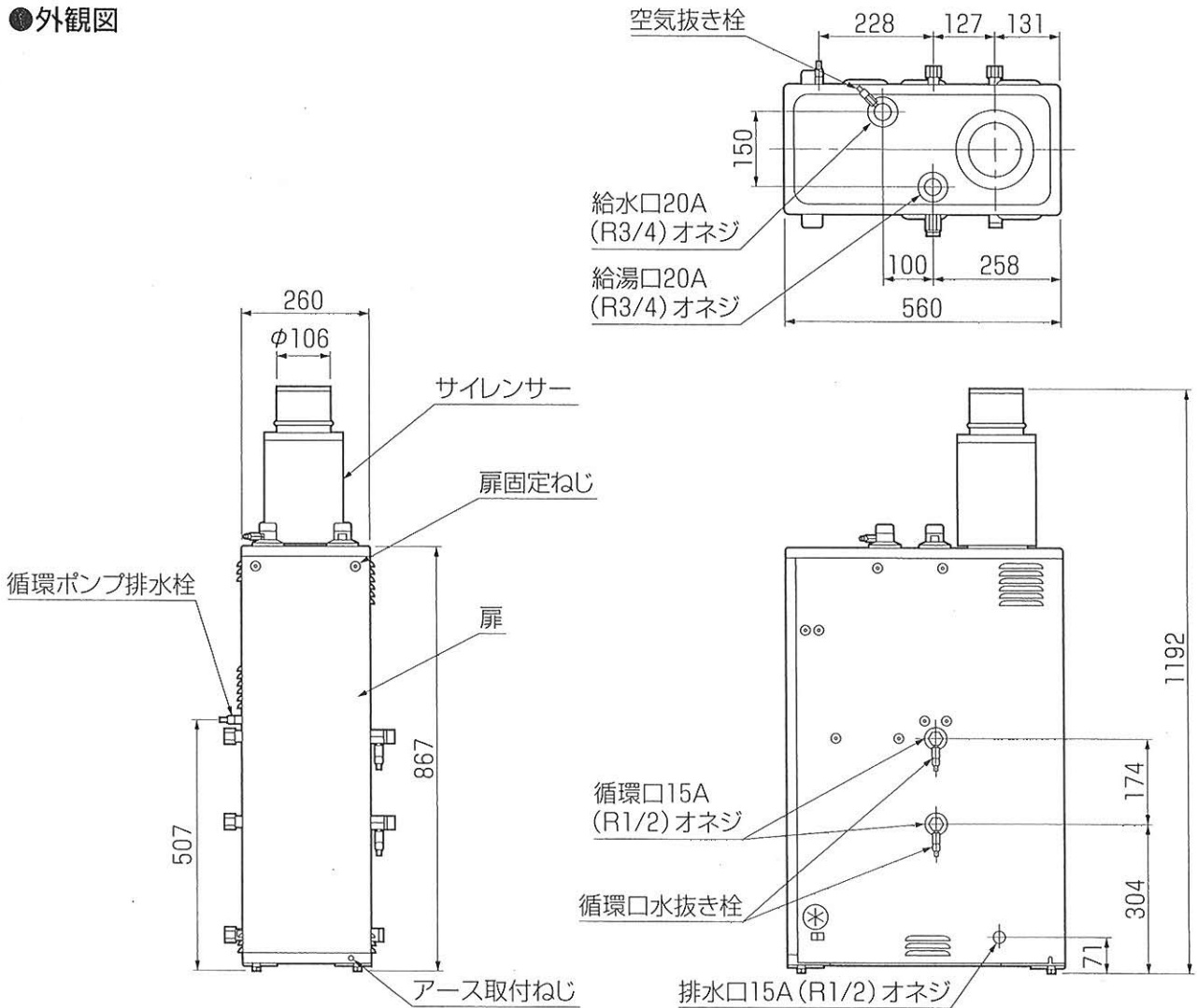
● 構造図



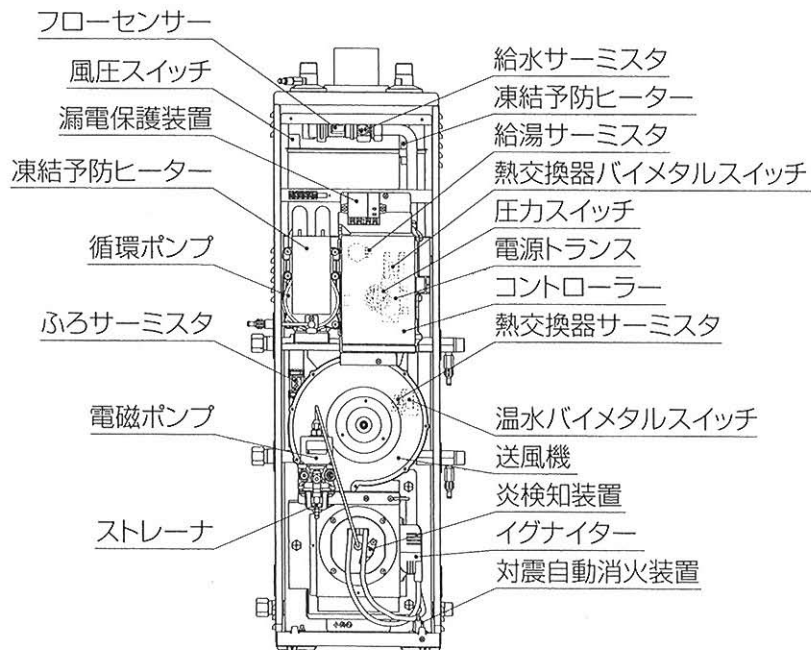
2 各部のなまえ

WS-44HE (F)

● 外観図



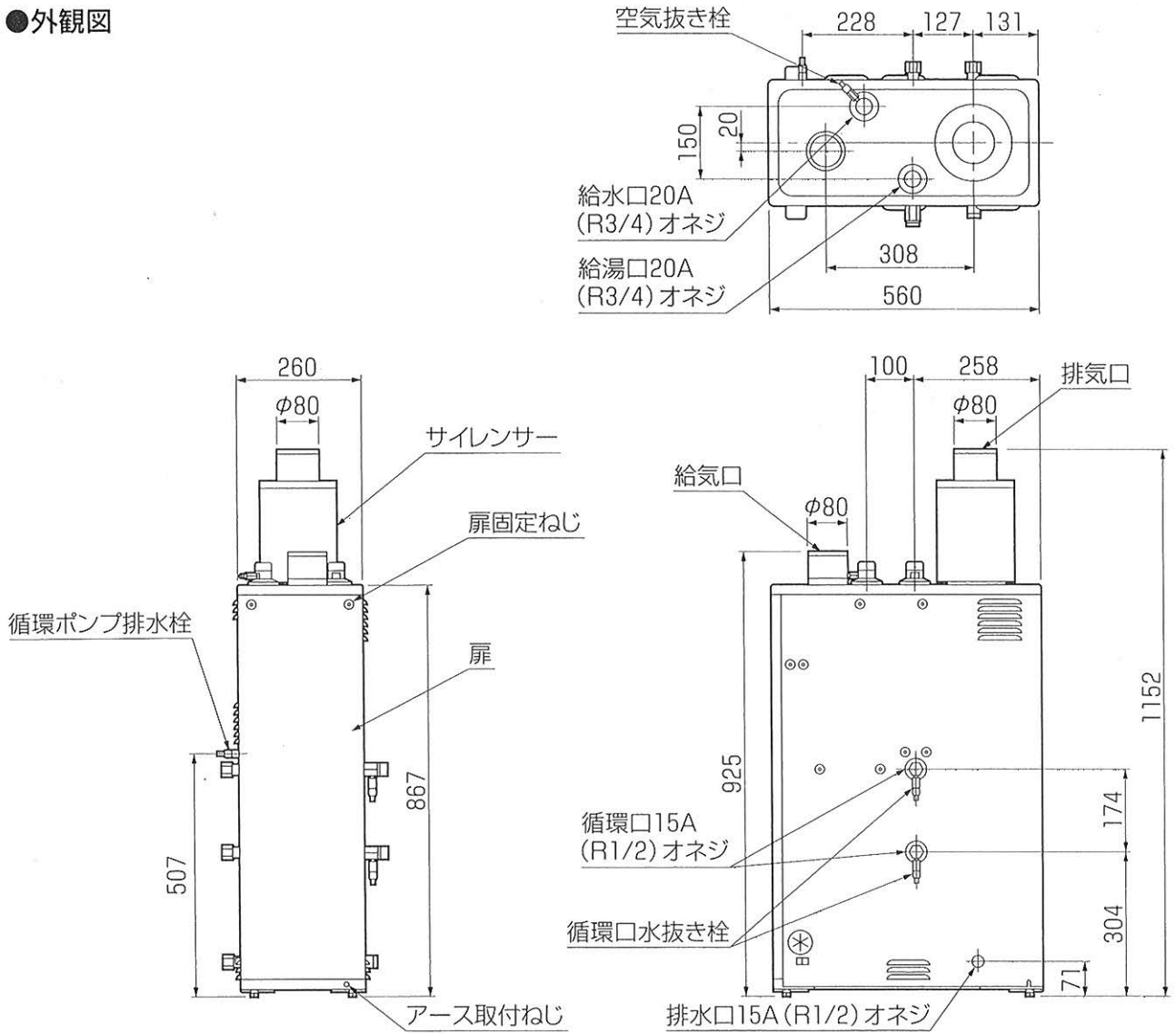
● 構造図



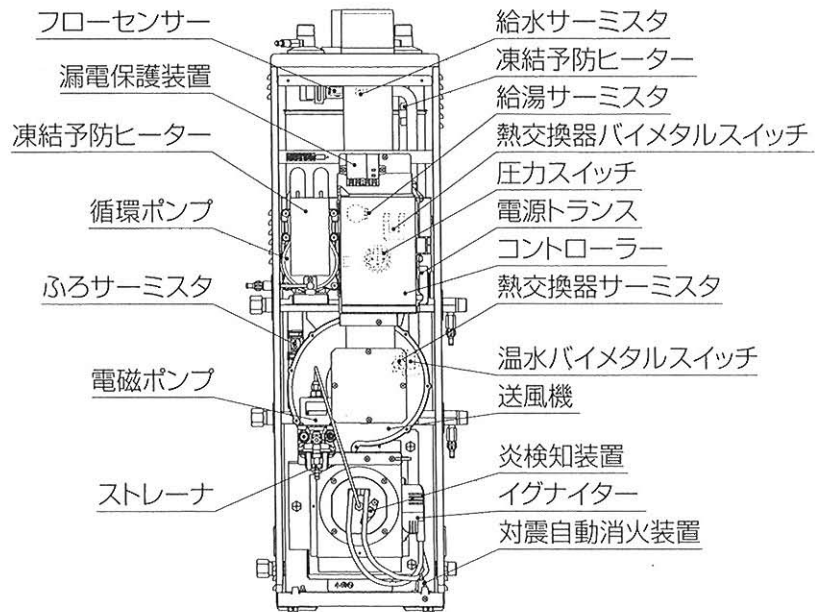
2 各部のなまえ

WS-44HE (FF)

●外観図



●構造図

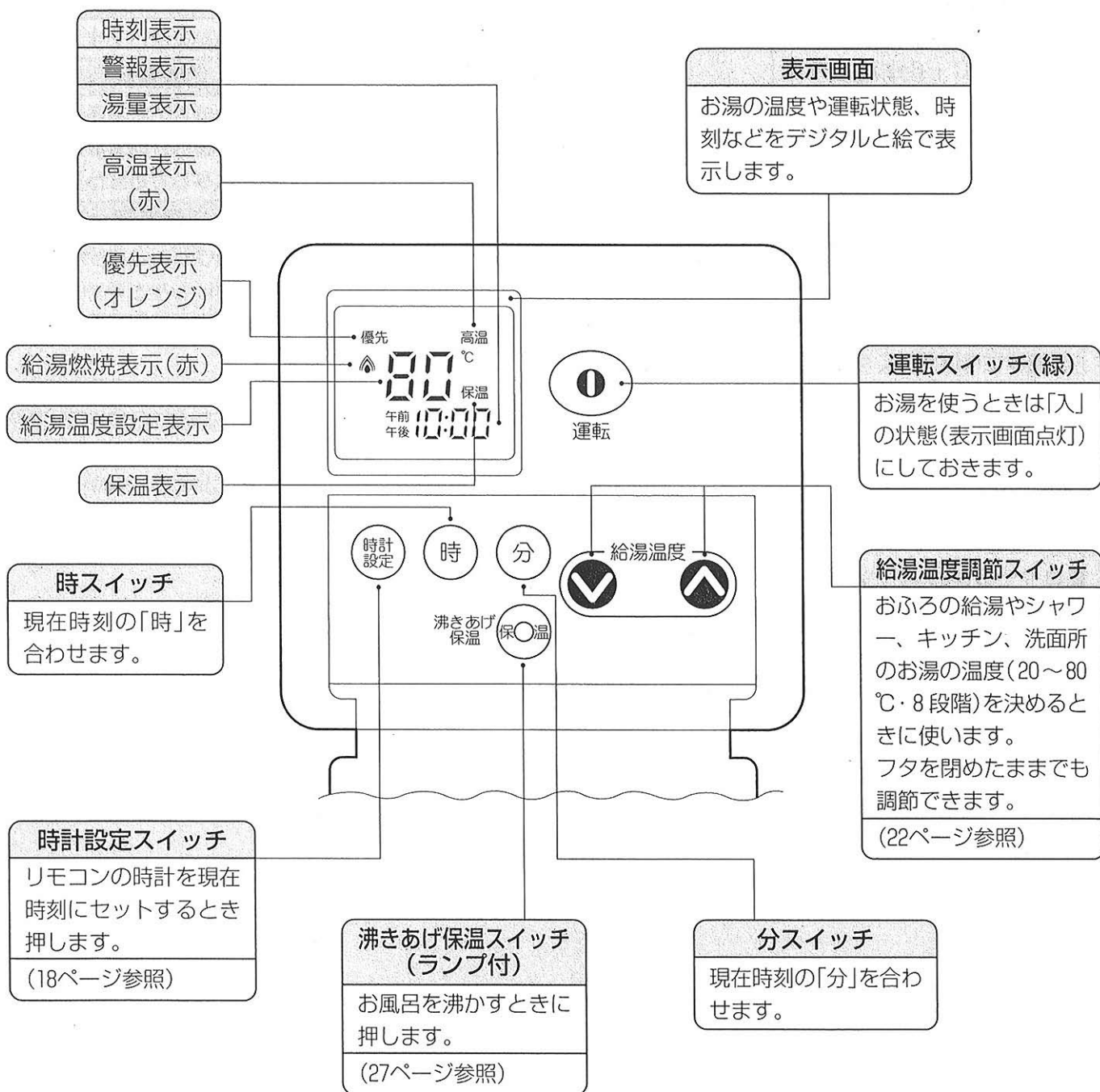


2 各部のなまえ

メインリモコンの操作と表示部のなまえ

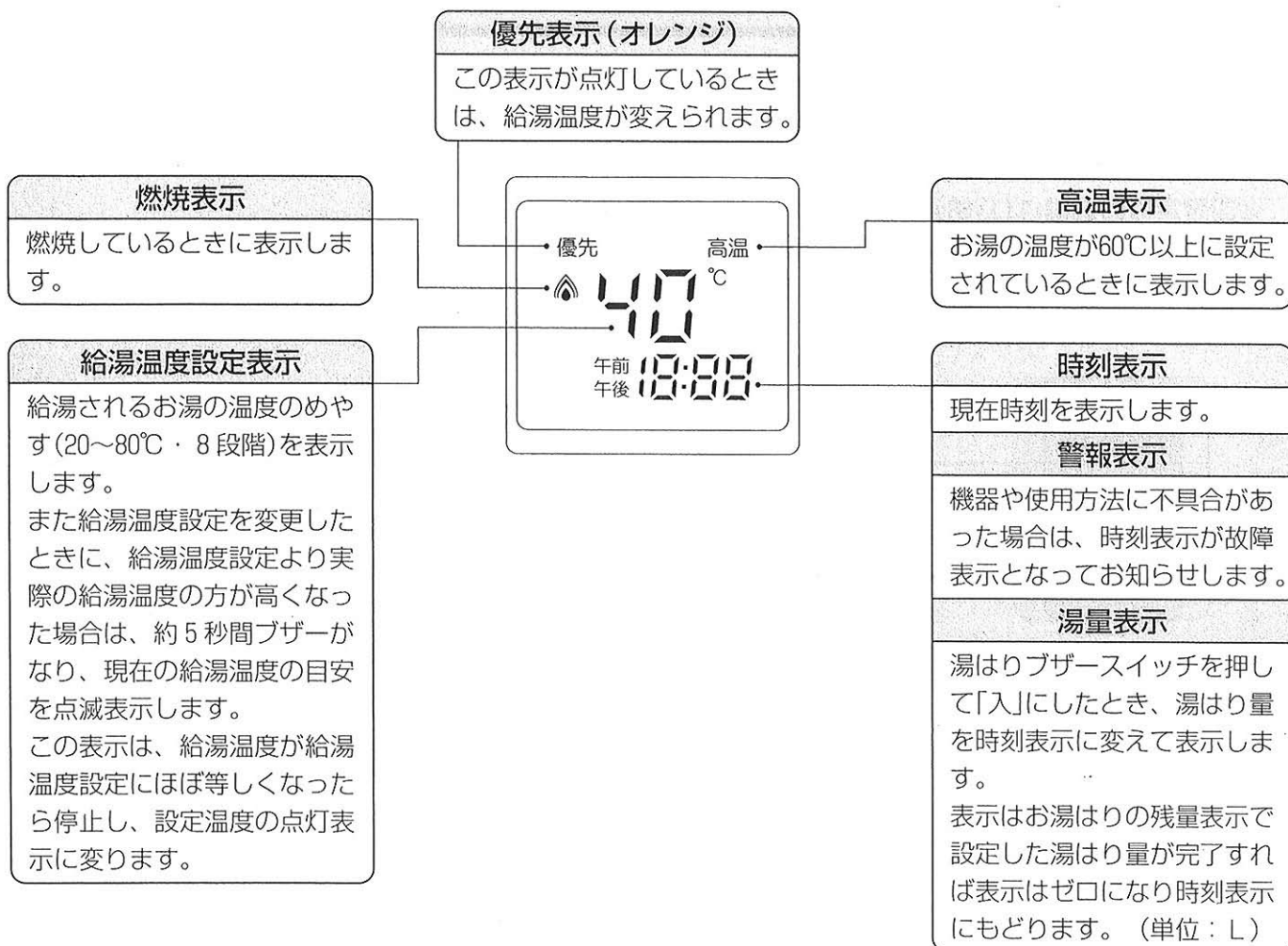
●メインリモコンにはブザーが内蔵されています。

- ①お風呂が沸きあがったときは、「ピピピッ」と約5回なります。
- ②ふろリモコンの「呼び出しスイッチ」を押している間は、呼び出し音が続けます。
- ③設定量のお湯はり(給湯)をしたときに「ピッピッ」と6回なります。
- ④給湯設定温度を変更するなどにより、給湯設定温度より高温のお湯が給湯される場合は、ブザーが約5秒間なり、給湯温度設定表示は給湯温度の目安を点滅表示します。



2 各部のなまえ

●メインリモコン表示画面のみかた



—お願い—

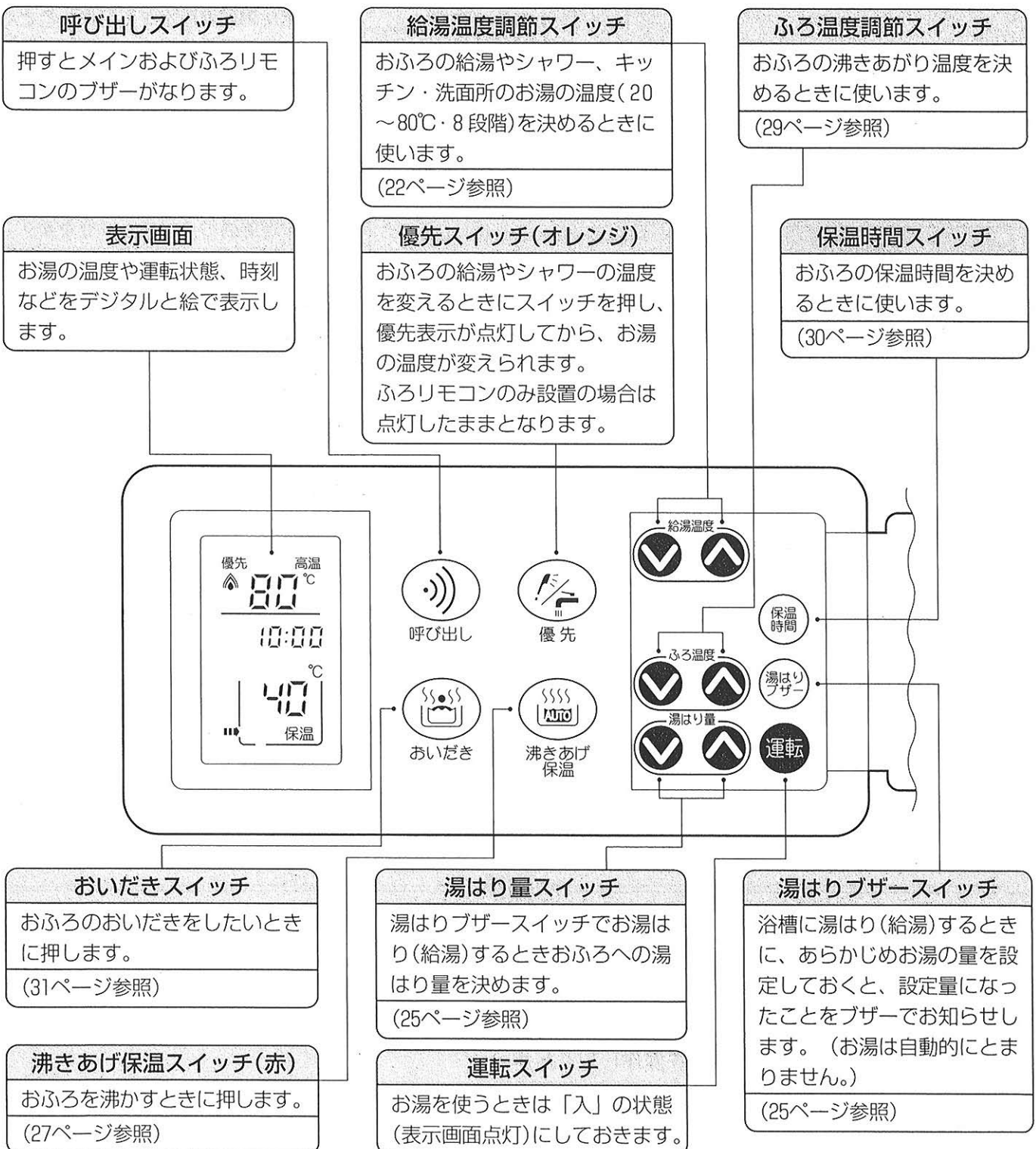
- リモコンのスイッチの操作はゆっくり確実におこなってください。(ピッという確認音がなります。)早く操作すると作動しない場合があります。
- スイッチを操作した場合は、表示画面の各動作表示の点灯を確認してください。点灯しない場合、再度スイッチを操作してください。

2 各部のなまえ

ふろリモコンの操作と表示部のなまえ

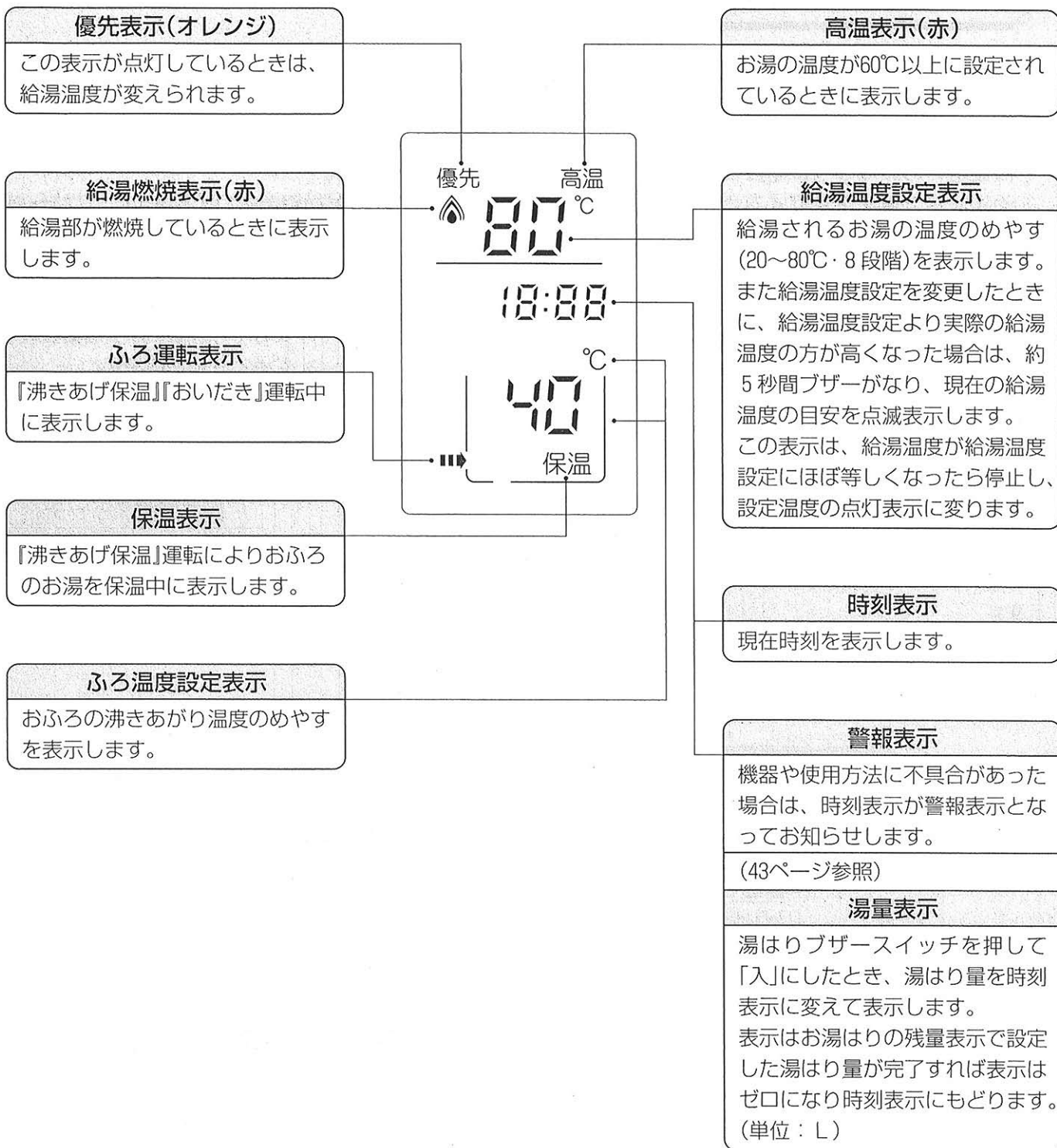
●ふろリモコンにはブザーが内蔵されています。

- ①おふろが沸きあがったときは、「ピピピピッ」と約5回なります。
- ②「呼び出しスイッチ」を押している間は、呼び出し音がり続けます。
- ③設定量のお湯はり(給湯)をしたときに「ピッピッ」と6回なります。
- ④給湯設定温度を変更するなどにより、給湯設定温度より高温のお湯が給湯される場合は、ブザーが約5秒間なり、給湯温度設定表示は給湯温度の目安を点滅表示します。



2 各部のなまえ

●ふろリモコン表示画面のみかた



お願い

- リモコンのスイッチの操作はゆっくり確実におこなってください。
(ピッという確認音があります。)
早く操作すると作動しない場合があります。
- スイッチを操作した場合は、表示画面の各動作表示の点灯を確認してください。
点灯しない場合、再度スイッチを操作してください。

3 使用前の準備

燃料

◎燃料は灯油(JIS1号灯油)を必ず使用してください。



ガソリン厳禁

- ★ガソリンなど揮発性の高い油は絶対に使用しないでください。
- 火災のおそれがあります。



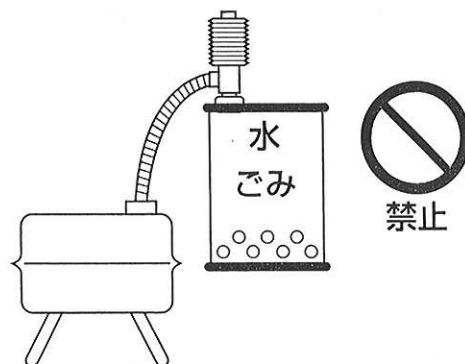
ガソリン禁止

★ガソリン、シンナーおよびこれらが混入した灯油、変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などは、絶対に使用しないでください。灯油は、必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。

給油のしかた

給油の際の注意

- ★給油の際に、水・ごみなどを入れないように特に注意してください。
水・ごみなどは燃焼不良や、電磁ポンプの寿命低下などの原因となります。
- 給油口ふたは、確実に締めてください。
- こぼれた灯油はよくふきとってください。

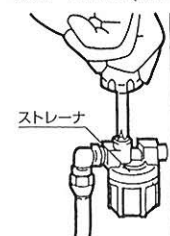


燃料切れの注意と空気抜きの方法

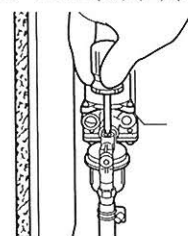
油タンクの油量計をときどき点検し、燃料の有無を調べて燃料切れになる前に必ず給油してください。据付けて初めて使用するときや、油タンクを空にし給油後初めて使用するときは送油経路内に空気が入って点火できないことがあります。この場合は、次の要領で送油経路の空気を抜いてください。

- 空気抜きは、送油経路のバーナー入口部のストレーナの上部のねじをゆるめておこないます。
このとき、こぼれた灯油はただちにふきとってください。
- 空気抜きが終わりましたらねじを確実に締めてください。
- 空気抜きは充分におこなってください。空気抜きが不十分ですと、点火が不具合であったり、燃焼中に消火することがあります。
- もし点火しなかった場合は、メインリモコンまたはふるりリモコンの「運転スイッチ」を押して「切」にして、約5秒後に押し直して「入」にしてください。

WS-44HE (MG)



WS-44HE(S)(F)(FF)



★油タンク(送油経路)は空にしないように注意してください。

③使用前の準備

●送油経路の空気抜きをより確実にこなうために、以下の要領で「空気抜き運転」をおこなってください。

- ①ストレーナからの空気抜きをおこなった後、電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていることを確認してください。
- ②給湯栓を開いて、給湯蛇口から水が出ることを確認してください。また、配管から水漏れがないか確認してください。
- ③メインリモコンまたはふろリモコンの「運転スイッチ」を「入」の状態にして、リモコンの「給湯温度調節スイッチ」を押して「給湯温度設定表示」を「80」に設定してください。バーナーが燃焼を始め、リモコンの「燃焼表示」が「点灯」します。
- ④給湯蛇口を全開にして、最低5分間バーナーの燃焼を継続させてください。
- ⑤5分以上バーナーを燃焼させたら給湯蛇口を閉めて「空気抜き運転」を終了します。リモコンの「給湯温度調節スイッチ」でお好みの給湯温度に調節してください。

運転開始前の準備と確認

循環ポンプへの呼び水[浴槽へ給水する前に必ずおこなってください]

お願い

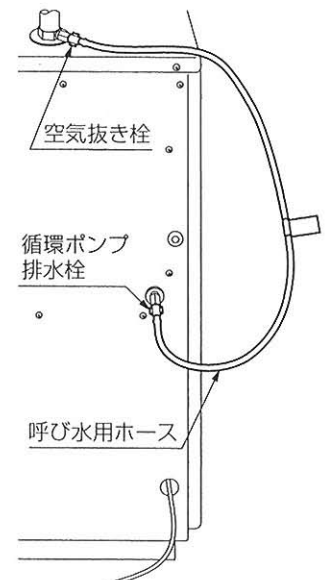
- ★給湯機を設置後初めて、ふろ運転するときや、循環ポンプ排水栓から水抜きをした後でふろ運転をするときは、循環ポンプに必ず呼び水をしてください。
- ★呼び水をしないでふろ運転をしても、ふろが沸かないばかりでなく、循環ポンプの故障の原因になります。

- 1 給湯側の給水バルブを開いて、通水可能な状態にしてください。
- 2 循環ポンプ排水栓を通水できる程度にゆるめてから、呼び水用ホースを排水栓に差し込んでください。
- 3 呼び水用ホースの他方を給水口の空気抜き栓の先端に差し込んでください。
- 4 空気抜き栓を通水が確認できる程度にゆるめてください。

お願い

1分間程度通水しますと呼び水は完了します。
ゆるめ過ぎますと空気抜き栓がはずれて、水が吹き出します。

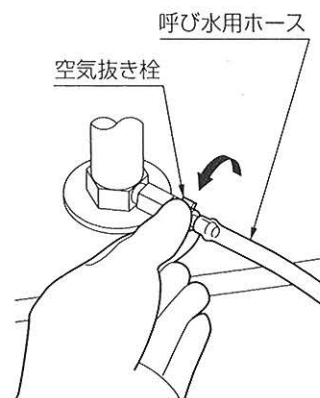
- 5 呼び水が完了しましたら、まず給水口の空気抜き栓を閉じてから、循環ポンプ排水栓を締めてください。



③使用前の準備

お願い

- 呼び水用ホースは、捨てずに必ず保管しておいてください。
- 一度循環ポンプへの給水(呼び水)をすれば、循環ポンプから水を抜かない限り、呼び水をする必要はありません。
- 循環ポンプに呼び水後は、お湯が循環するまでに、多少の時間がかかることがあります。
- お湯が循環しない場合は、呼び水が不足していることがあります。このようなときは、1～5項をくり返しておこなってください。



※上図はWS-44HE(S)(F)(FF)です。WS-44HE(MG)は、7ページの外觀図を参照して、空気抜き栓と循環ポンプ排水栓の位置を確認し、操作してください。

浴槽への給水及び水漏れの確認

浴槽の水位は、浴槽の循環口から約10 cm以上給水してあることを確認してください。

浴槽の排水栓や連結管の継手部分、循環管接続部などに水漏れがないか確認してください。

給水及び水漏れの確認

運転する前に、給水元栓が開いていることを確認し、給湯蛇口を開いて水が出ることを確かめてください。水が出ないときは、凍結していないか、排水栓が開いていないかなどを調べ、給湯蛇口から水が出るように処置をしてください。

また、配管経路に水漏れのないことを確認してください。

送油経路の油漏れの確認

油タンクや送油管の接合部、ストレーナなどから油漏れがないかどうか確認してください。

電気回路の確認

電源プラグがコンセントに確実に差し込まれているか確認してください。

電源コードを傷付けたり、束ねたり、無理に曲げたり、重いものをのせないでください。

機器周辺の危険物などに関する注意

給湯機の上や周囲にガソリン、シンナーなどの危険物や紙などの可燃物が置かれていないか確認してください。

排気筒(給排気筒)及び排気筒トップ(給排気筒トップ)の外れに関する注意

WS-44HE(S)・WS-44HE(F)・WS-44HE(FF)

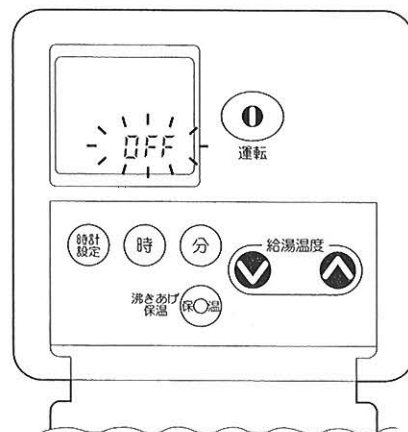
排気筒(給排気筒)及び排気筒トップ(給排気筒トップ)は確実に接続かつ固定してあり、外れや排ガス漏れがないか確認してください。

③使用前の準備

メインリモコンに現在の時刻をセットする

★ふろリモコンのみの設置の場合は、時刻は表示されません。

① メインリモコンのフタを開け、「**時計設定**」スイッチを押します。



●電源プラグを差し込んだとき画面の時刻表示に「OFF」が「点滅」します。

例 現在の時刻が「午前10時00分」の場合

② 画面を見ながら「**時**」のスイッチを押して午前「**10**」に合わせる。

③ 画面を見ながら「**分**」のスイッチを押して「**00**」に合わせる。



●「**時**・**分**」のスイッチは、1度押すごとに1時間または1分間ずつ進みます。押し続けると連続的に進みます。

表示したい時刻の数字に近づいたら1回ずつ押すようにします。

●時刻合わせをする場合は、「時刻」表示が「点滅」しているうち(約10秒間)に「**時**」・「**分**」のどちらかのスイッチを押してください。

時刻合わせができなかった場合は、もう一度「**時計設定**」スイッチを押してやり直してください。

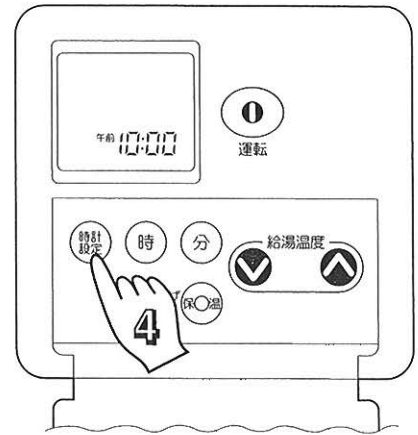
●現在時刻が「午後」の場合は、画面表示が「午後」になっていることを確認してください。

③使用前の準備

- 4 「**時計設定**」スイッチを再度押すと、「時刻表示」の「点滅」が止まります。
これで時刻合わせは完了です。

お願い

- 「**時計設定**」スイッチを押した瞬間に秒は0秒に戻りますので、時報などに合わせて押せばより正確な時刻になります。
 - メインリモコンで時刻合わせが完了すると同時に、ふろリモコンに時刻が表示されます。
- ★電源プラグが抜けた場合や停電後の再通電時には画面が「FF」の表示に戻ります。
再度、時刻を合わせてください。



4 使い方

運転方法(給湯)

運転開始

1 油タンクの送油バルブを開けます。

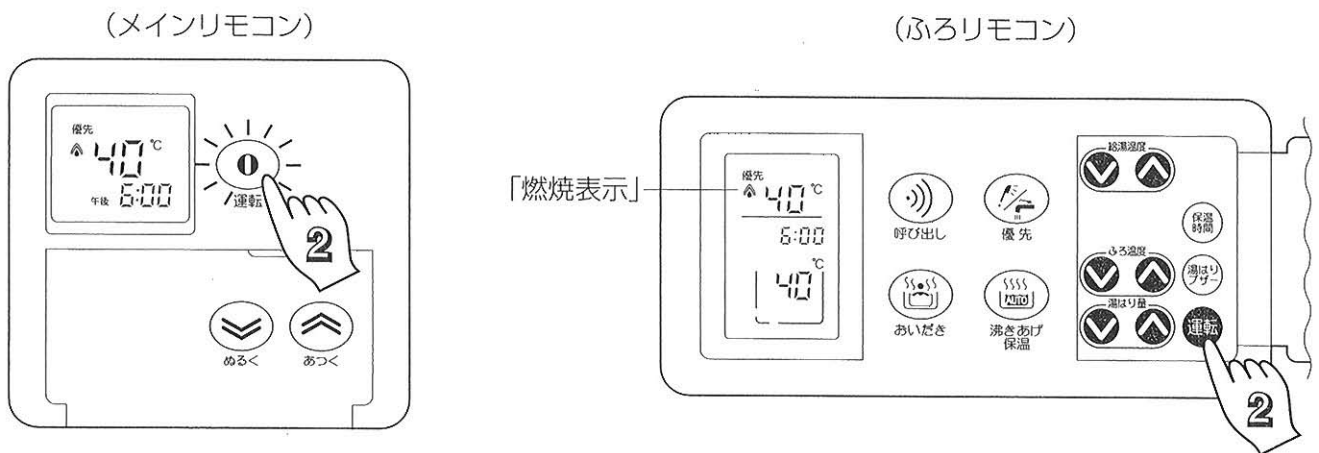
2 「運転スイッチ」を押して「入」にします。

このとき「運転スイッチ」が「点灯」します。

★メインリモコンでもふろリモコンでもできます。

●以後は設定温度によって自動運転となります。

●燃焼中は表示画面に「燃焼表示」が、表示されます。



※別売品のサブリモコン「BR-4723(S)」でも操作できます。

サブリモコンでは「運転スイッチ」の「入」「切」と給湯温度の調節ができます。

操作方法はメインリモコンと同じです。

正常に点火できない場合の処置方法

1 据付けて初めて使用する時や、油タンクを空にし給油後初めて使用するときは、送油経路内に空気が入って点火できないことがあります。この場合は、送油経路内の空気を抜いてください。

(詳しくは15ページ **燃料切れの注意と空気抜きの方法** 参照)

2 油タンク内に水が入っていて電磁ポンプが水を吸入していないかどうかを調べて、水が入っていれば水を抜いてください。

又、ストレーナのドレンカップ内に水が入っていないかを調べて、水が入っていれば水を抜いてください。

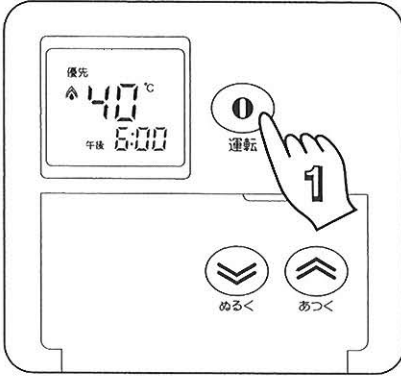
4 使い方

運転停止

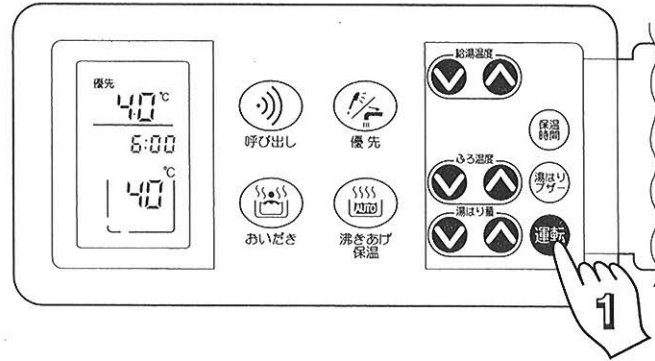
1 「運転スイッチ」を「切」にします。

- 全ての運転が停止し、画面の「時計表示」以外の全ての表示が消えます。
- ★メインリモコンでもふろリモコンでも操作できます。

(メインリモコン)



(ふろリモコン)



2 油タンクの送油バルブを確実に閉めます。

- 長期間留守にするときには、電源プラグをコンセントから抜くとともに、機器内の水抜き処置をしてください。

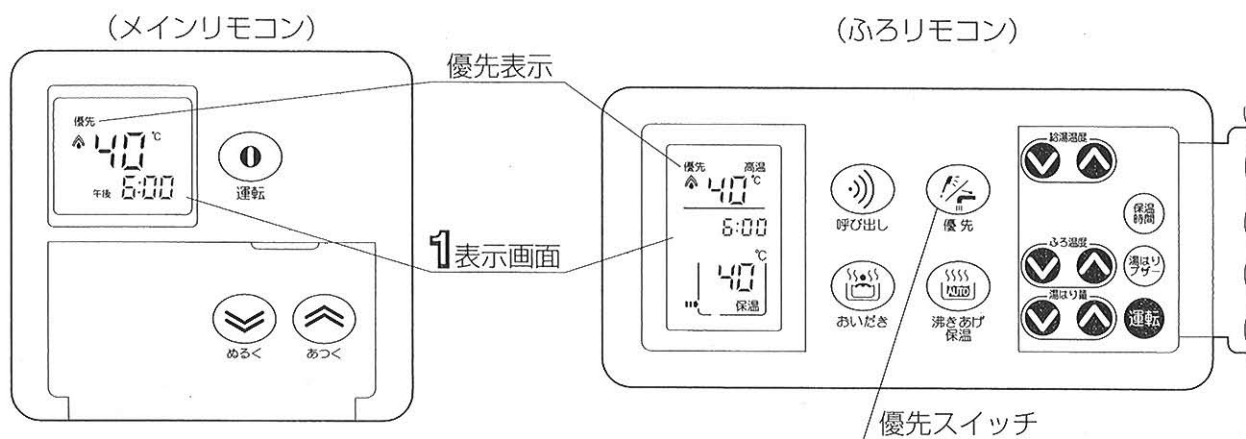
(32~34ページ **水抜きによる方法** 参照)

4 使い方

給湯温度調節の方法

★この操作でシャワー、台所、洗面所のお湯の温度が調節できます。

●メインリモコン、ふろリモコンのどちらでもおこなえます。



1 表示画面の点灯を確認めます。

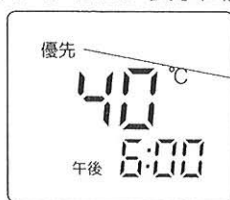
- 表示画面が「点灯」していないときは、「運転スイッチ」を押して表示画面を「点灯」状態にします。
- 「運転スイッチ」を押して「入」にしたリモコンには「優先表示」が「点灯」します。ふろリモコンの場合は「優先スイッチ」がオレンジ色に光ります。
- 「運転スイッチ」を押して「入」にしたリモコンに設定されていた給湯温度が表示されますので、温度を変えなくてもいい場合は給湯栓を開くだけでお湯が使えます。

お願い

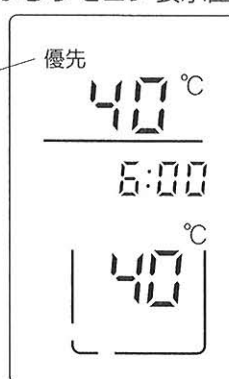
- お買い求めの際には給湯温度は40℃に設定してあります。このままでもご使用いただけますが、好みの温度に調節してください。
- 電源プラグが抜けたり、停電時でも停電前の設定を記憶しております。

2 給湯温度を変えたいときは、まず「優先表示」の「点灯」を確認めます。

メインリモコン表示画面



ふろリモコン表示画面



★優先表示が「点灯」していない場合は、下記の方法で優先権を切り替えてください。

①ふろリモコン → メインリモコン優先にする

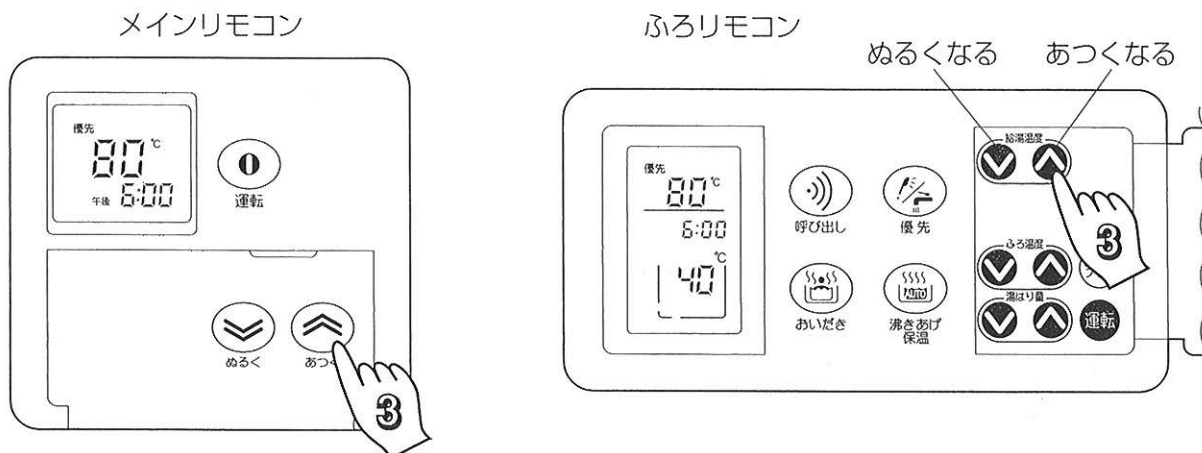
ふろリモコンの「優先スイッチ」を押すか、メインリモコンで一旦「運転スイッチ」を「切」にしたあと、もう一度「運転スイッチ」を押して「入」にする。



②メインリモコン → ふろリモコン優先にする

ふろリモコンの「優先スイッチ」を押す。(メインリモコン側からは切り替えができません)

4 使い方

③ 「給湯温度調節スイッチ」で温度を決めます。



- ★「スイッチ」を押し続けると「20℃」(最低温度設定)まで連続で表示が変わります。
- ★「スイッチ」を押し続けると「80℃」(最高温度設定)まで連続で表示が変わります。

お願い

給湯温度設定を変更したときに、給湯温度設定より実際の給湯温度の方が高くなった場合は、約5秒間ブザーが鳴り、現在の給湯温度の目安を「点滅」表示します。
この表示は給湯温度が給湯温度設定にほぼ等しくなったら停止し、設定温度の「点灯」表示に変わります。

注意

- ★「給湯温度調節スイッチ」にて設定した温度で、お湯を使用している時(特にシャワー)使用時は、絶対に「沸きあげ保温運転」、「おいだき運転」のスイッチを押して「入」にしないでください。
- 設定表示が「80℃」(最高設定)になり、やけどのおそれがあります。
- ★ふる運転(「沸きあげ保温運転」、「おいだき運転」)を終了した後、設定表示は「80℃」からふる運転前の設定に戻りますが、しばらくの間は設定温度より熱いお湯が出ますので注意してください。この時約5秒間ブザーがなり、設定表示は現在の給湯温度の目安を点滅表示します。
- 熱交換器内のお湯はすぐにはふる運転前の設定温度まで下がりません。やけどのおそれがあります。
- ★お風呂(特にシャワー)の使用中は絶対に使用場所以外のリモコンで給湯温度を変更したり、「運転スイッチ」を押して「切」にしたりしないでください。
- やけどのおそれや、急に水になって思わぬ事故の原因となります。



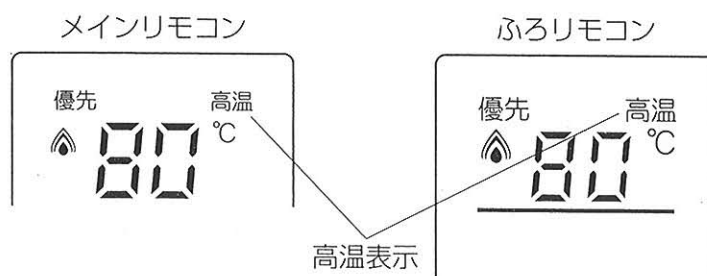
4 使い方

お願い

- ★やけどのおそれを緩和するためシャワー水栓には、サーモ付混合水栓をご使用ください。
- ふろ運転中(沸きあげ保温運転中、おいだき運転中)は、おいだき能力を向上させるため給湯温度の設定表示が「80℃」(最高温度設定)に固定されます。
- 「給湯温度調節スイッチ」で給湯温度を設定しても、水の混合なしで使用した場合、給湯温度の変化が大きくなる場合がありますので注意してください。
- ★快適にご使用いただくために「給湯温度調節スイッチ」で設定表示を「60℃」以上に設定して、サーモ付混合水栓をご使用ください。
- ★表示している温度とお湯の温度は給湯配管の長さや気温などにより必ずしも一致しません。目安としてお使いください。
- ★給湯温度は、「給湯温度調節スイッチ」で設定を変えなくても給水温度、給湯量により変化します。

◎給湯温度設定表示は、20・35・40・45・50・60・70・80℃の8段階です。

- 燃焼中は表示画面に「燃焼表示 🔥」が出ます。
- 給湯温度設定表示が「60℃・70℃・80℃」のときは、右図のような「高温」表示が「点灯」して注意を促します。



給湯量と給湯温度の早見表

		給 湯 量 (L/min)		
		給水温度	5℃ (冬期)	15℃ (春期・秋期)
給湯温度	40℃	約18.1	約25.4	約42.3
	50℃	約14.1	約18.1	約25.4
	60℃	約11.5	約14.1	約18.1
	80℃	約 8.5	約 9.8	約11.5

◎水圧や配管の条件等により最大能力が得られない場合があります。

4 使い方

給湯量お知らせ機能を使ってお湯はり(給湯)する方法

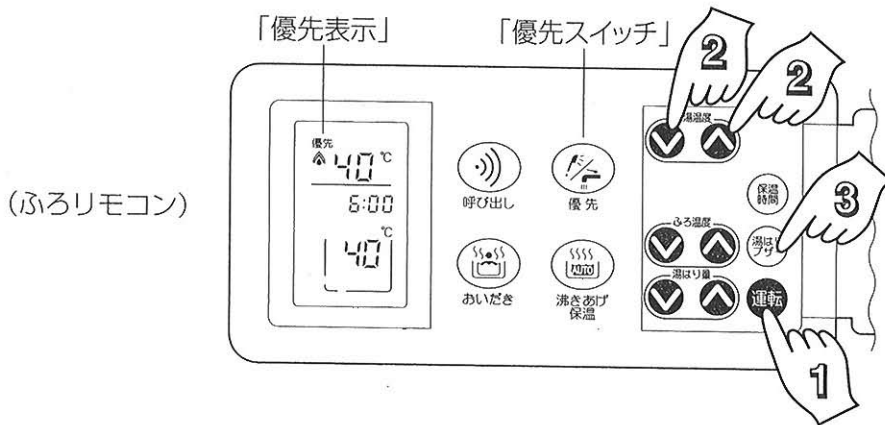
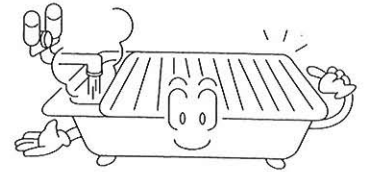
(浴槽へお湯はり(給湯)するときに、お湯の量をあらかじめ選定しておく、設定量に達したことをブザーでお知らせします。)

★お湯は自動的には止まりません。

★ふろリモコンで操作します。

お願い

- 電源プラグがコンセントに確実に差し込まれているか確認してください。
- 浴槽に排水栓をしてください。
- 浴槽にフタをしてください。



1 ふろリモコンの「運転スイッチ」を押して「入」にします。

- 表示画面に「給湯温度設定表示」・「ふろ温度設定表示」などが「点灯」します。

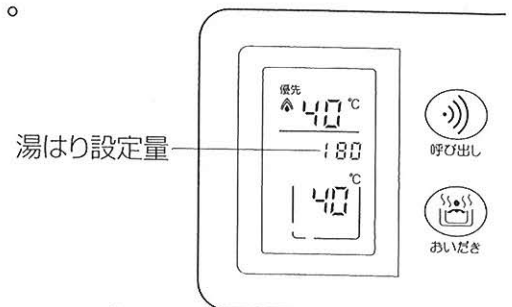
2 ふろリモコンの「給湯温度調節スイッチ」でお湯の温度を調節します。

★お湯はりする時の温度は給湯温度設定で出湯されます。

- ふろリモコンの「優先スイッチ」、「優先表示」が「点灯」していることを確認してください。「点灯」していない場合は「優先スイッチ」を押してください。

3 ふろリモコンの「湯はりブザースイッチ」を押します。

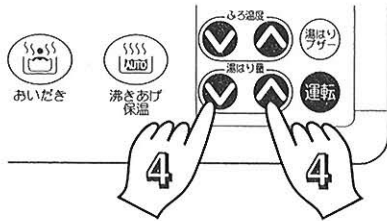
- ふろリモコンおよびメインリモコンにお湯はり(給湯)設定量が表示されます。
- はじめて電源を入れたときの、お湯の量は180 Lに設定されています。



4 使い方

4 ふろリモコンの「湯はり量スイッチ」を押してお湯の量を選びます。

- 「湯はり量スイッチ」でお好みのお湯の量にします。
- 設定できるお湯の量は10Lから500Lまで10Lきざみです。
浴槽の大きさによって適正量が異なりますので適量に設定してください。



湯はり量

1回押すごとに設定湯量が10L上がり、
押し続けると500Lまで連続して上がります。



湯はり量

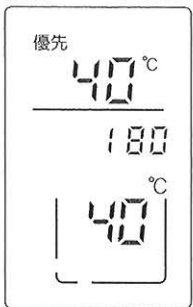
1回押すごとに設定湯量が10L下がり、
押し続けると10Lまで連続して下がります。

5 給湯蛇口を開いて、浴槽にお湯はり(給湯)します。

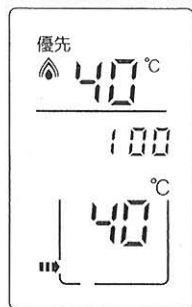
- お湯はり中の表示について
お湯はり量表示は残りのお湯はり量を表示します。



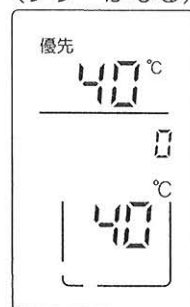
(例) 180Lに設定



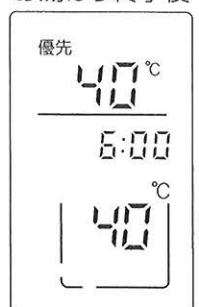
80Lお湯はり済み



180Lお湯はり完了
(ブザーがなる)



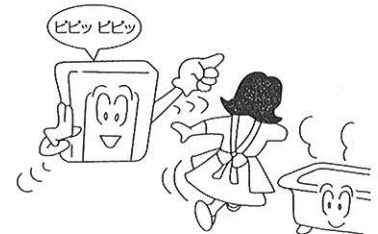
お湯はり終了後



(通常表示)

6 ブザーが鳴ったら、給湯蛇口を閉めてください。

- お湯はり(給湯)量が設定量に達すると、ふろとメインの両方のリモコンのブザーが約5秒間鳴ってお知らせします。
- ブザーが鳴った後は通常表示になります。
- ★ブザーが鳴っても、お湯はりは自動では止まりません。



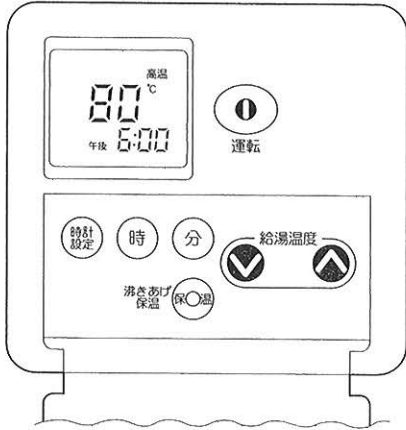
お願い

- 浴槽へのお湯はり(給湯)中に他の場所(台所など)でお湯を使用した場合、その分だけ浴槽へのお湯はり量が少なくなります。
- サーモ付混合水栓などで湯水混合して使用する場合は、混合される水の量だけお湯はり量が増えます。

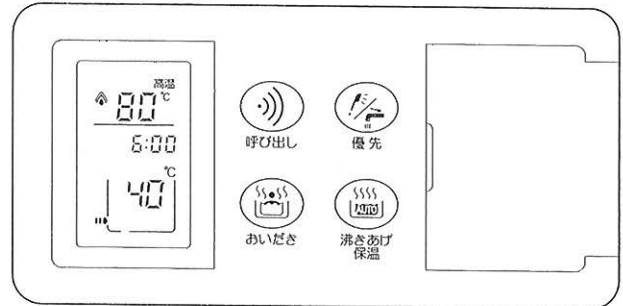
4 使い方

お風呂を沸かす方法(沸きあげ保温運転のしかた)

(メインリモコン)



(ふろリモコン)



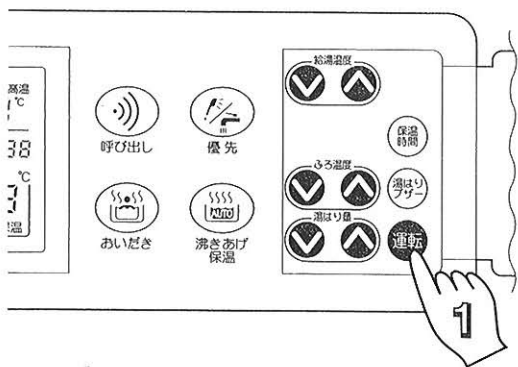
お願い

- 電源プラグがコンセントに確実に差し込まれているか確認してください。
- 浴槽の循環口から約10 cm以上上まで給水してください。
- 浴槽に排水栓をしてください。
- 浴槽にフタをしてください。

1 「運転スイッチ」を押して「入」にします。(メインリモコン・ふろリモコンのどちらでも操作できます。)

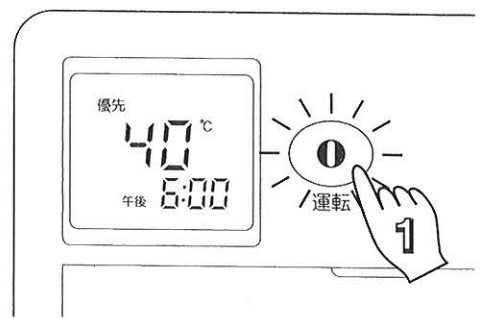
- 表示画面に「給湯温度設定表示」・「ふろ温度設定表示」などが「点灯」し、同時にメインリモコンの「運転スイッチ」が緑色に光ります。

ふろリモコンの場合



★ふろリモコンのふたを開けてください。

メインリモコンの場合



2 「沸きあげ保温スイッチ」を押して「入」にします。

- 「沸きあげ保温スイッチ」が赤く光り、お風呂沸かしが始まります。



お願い

沸きあげ保温運転中は、給湯温度設定表示は「80°C」に固定され、表示画面には **高温** 表示がでます。また **優先** 表示はどちらのリモコンにも表示されません。

4 使い方

★お風呂沸かしの途中は、下図の表示が出ます。

●ふろリモコンの「ふろ運転表示」が「点滅」します。

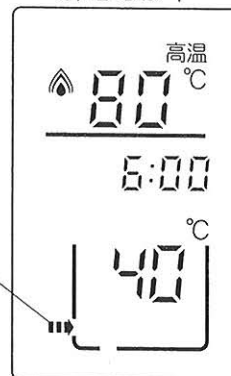
メインリモコンの表示

沸きあげ中



ふろリモコンの表示

沸きあげ中



ふろ運転表示

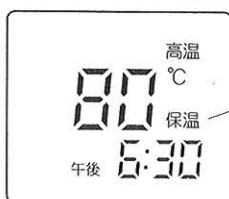
3 お風呂が沸きあがると自動でストップします。

●お風呂が沸きあがると、ブザーで知らせます。

●同時に、自動保温の準備に入ります。

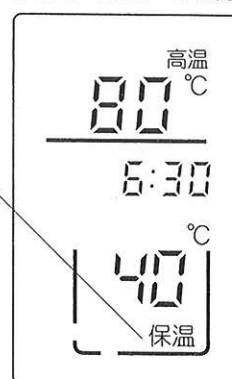
●沸きあがったときは、「保温」の表示がでて、「ふろ運転表示」が「消灯」します。

メインリモコンの表示



「保温」の表示

ふろリモコンの表示



お願い

- 浴槽の残り湯などを排水するときは、「沸きあげ保温スイッチ」(赤)が消灯していることを確認してからおこなってください。

4 お湯の温度がさがると、自動的にあたためます。

●お湯の温度がさがった場合、自動的にあたためる《保温機能》がついています。

★この機能は、沸きあげ保温運転開始から約4時間はたります。

5 沸きあげ保温運転開始から約4時間たつと、「沸きあげ保温スイッチ(赤)」が「消灯」します。

●自動的に沸きあげ保温運転が止まり、表示画面の「保温」の表示も消えます。

●途中で止めたいときは、もう一度「沸きあげ保温スイッチ」を押してください。沸きあげ保温運転が中止され、「沸きあげ保温スイッチ(赤)」が消灯します。

●「給湯温度設定表示」は沸きあげ保温運転をする前の設定に、自動的にもどります。

お願い

- お買上げの際には、保温時間を4時間に設定してあります。このままでもご使用いただけますが、お好みの時間に変えることができます。
- 電源プラグが抜けたり、停電時でも停電前の設定を記憶しています。

4 使い方

お風呂の沸き上がり温度の換えかた

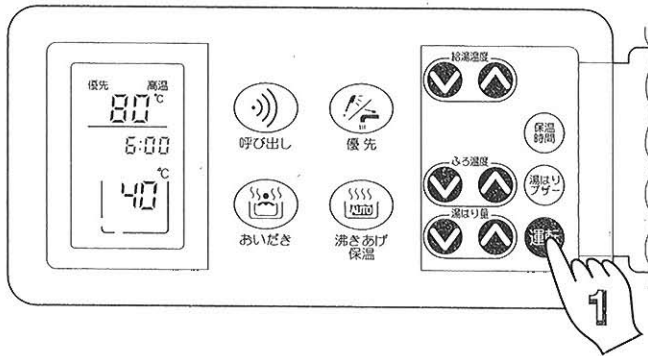
★ふろリモコンでしか操作できません。

お願い

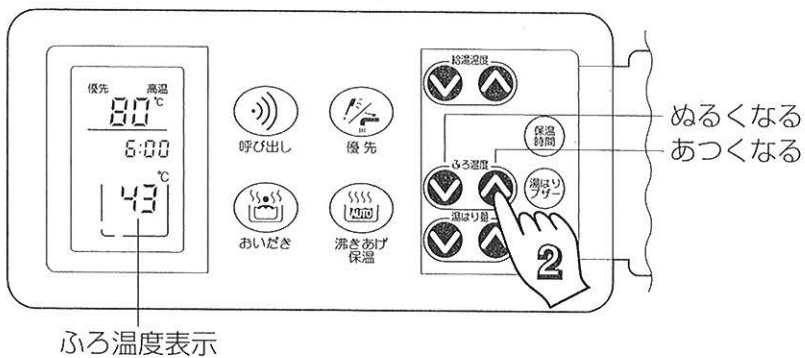
- お買い上げの際には、お風呂の沸き上がり温度を40℃に設定してあります。このままでもご使用いただけますが、お好みの温度に変えることができます。
- 電源プラグが抜けたり、停電時でも、停電前の設定を記憶しています。

1 ふろリモコンのフタをあけ、「運転スイッチ」を押します。

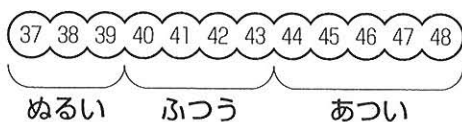
- 表示画面が「点灯」し、現在設定されているふろ温度(沸き上がり温度)が表示されます。
- はじめて電源を入れたときは40℃に設定されています。



2 お風呂の沸き上がり温度を調節します。



- 「ふろ温度調節スイッチ」でお好みの沸き上がり温度にします。
- 設定できる温度は37℃～48℃の12段階です。
1℃きざみで一回スイッチを押すと1℃あがります。
押し続けると、連続で表示が変わります。
※温度表示はめやすです。



お好みのお湯の温度には個人差があります。
この表は、およそのめやすにしてください。

3



あとは「沸きあげ保温
スイッチ」を押すと、
設定した温度に沸きあ
がり、自動的にストッ
プします。

4 使い方

おふろの保温時間の変えかた

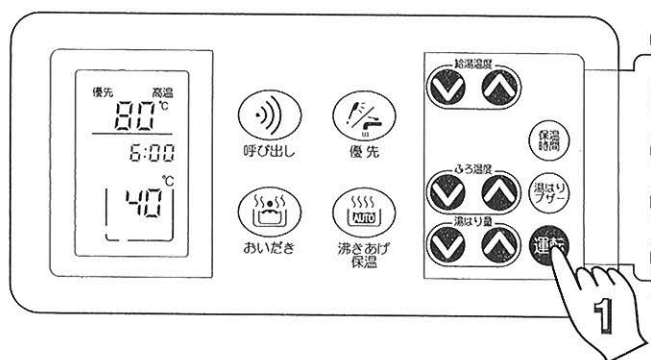
★ふろリモコンでしか操作できません。

お願い

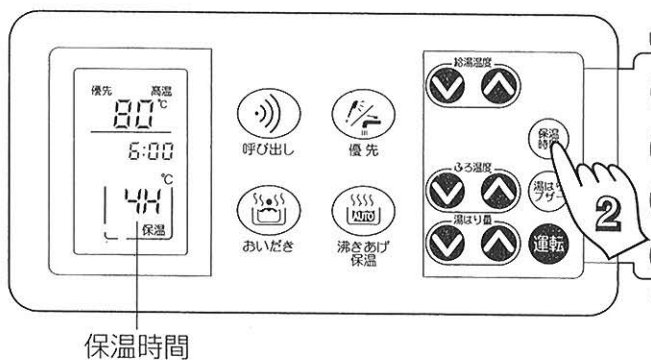
- お買い上げの際には、おふろの保温時間を4時間に設定してあります。このままでもご使用いただけますが、お好みの時間に変えることができます。
- 電源プラグが抜けたり、停電時でも、停電前の設定を記憶しています。

1 ふろリモコンのフタをあけ、「運転スイッチ」を押します。

- 表示画面が「点灯」します。
- はじめて電源を入れたときは4時間に設定されています。



2 「保温時間スイッチ」を押します。



- ふろ温度表示部に「4 H 保温」が表示されます。
「保温時間スイッチ」を押す毎に表示が変わります。

→4 H → 2 H → 1 H → 8 H → 6 H

4 使い方

おいだきのしかた…(少しあつめにしたいときや、昨日の残り湯を沸かしたいとき)

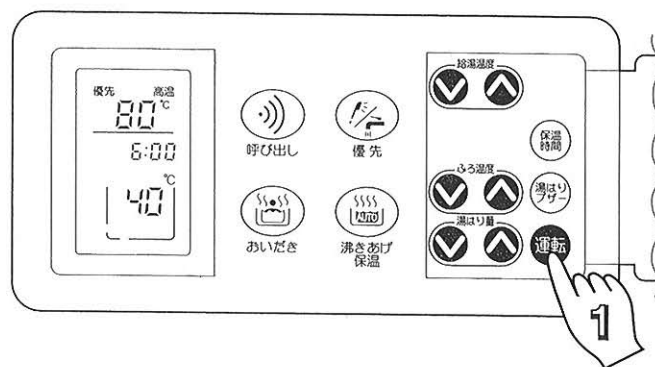
★ふろリモコンでしか操作できません。

お願い

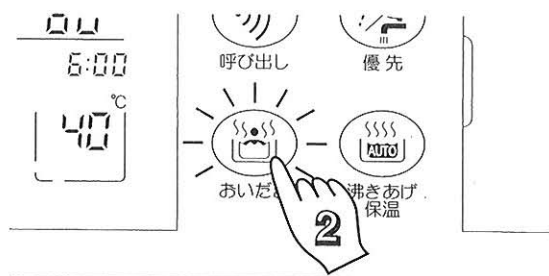
- おいだき運転中は、給湯温度設定表示は「80℃」に固定され、表示画面には **高温** 表示がでます。
- 「おいだき」運転時には、循環金具から泡が出てくることがあります。また循環金具からあついお湯が出てきますので身体などに直接あてないようにしてください。

1 表示画面の「点灯」を確かめます。

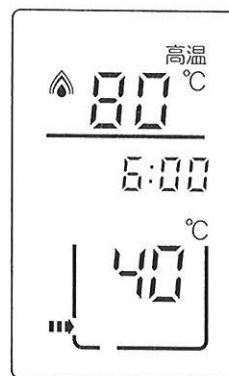
- 表示画面が「点灯」していないときは、ふろリモコンのフタの中にある「運転スイッチ」を押して表示画面を「点灯」状態にします。



2 ふろリモコンの「おいだきスイッチ」を押します。



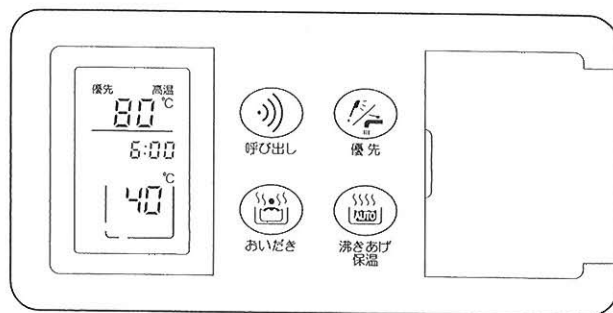
- おいだき中は下図の表示が出ます。



3 おいだきが終わると「おいだきスイッチ、(緑)」が「消灯」します。

- 浴槽のお湯の温度がふろ温度設定より約2℃以上ぬるい場合には、ふろ温度設定まで沸きあげます。その他の場合はお湯の温度が約2℃上昇するまでおいだきします。

★ふろ温度設定より2℃以上の沸きあげはおこないません。



4 おふろが沸きあがると自動でストップします。

- 給湯温度設定表示はおいだき運転前の状態にもどります。
- 保温運転中の場合は保温運転にもどります。

4 使い方

凍結予防

お願い

- ★寒冷地、温暖地にかかわらず、凍結による機器の破損、水漏れを予防するため特に給水配管、給湯配管、ふろ配管、排水管、水道用減圧弁、温水機器用逃し弁、バルブなどを、保温材や凍結予防ヒーターなどで十分に保温(加温)することはもちろん、次のように凍結予防をしてください。
- 給湯機が使えなくなったり、破損することがあります。

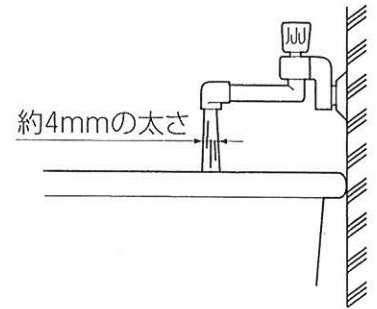
給湯栓から水を流す方法

- この場合は機器本体だけでなく、給水・給湯配管、バルブ類の凍結予防もできます。ただし、ふろ側は循環ポンプ運転により凍結を予防しますので、電源プラグをコンセントから抜かないでください。

■操作のしかた

「運転スイッチ」を押して「切」にし油タンクの送油バルブを閉めます。給湯蛇口(浴槽等)を開いて1分間に約400cc(牛乳びん2本)の水を出します。

- ★流量が不安定なことがありますので30分位後にもう一度確認してください。



凍結予防運転による方法

●給湯側

「給湯温度調節スイッチ」で設定表示「20」以上にして、運転状態にしておいてください。

- ★ただし、配管内の水の凍結予防はできませんので、このときは、配管内の水が凍結しないように保温材や凍結予防ヒーターなどで充分なる保温(加温)処理が必要です。

●ふろ側

循環ポンプが凍結するおそれのある温度になると、自動ポンプ運転により凍結を予防します。

凍結のおそれのあるときは、浴槽に循環金具の上より10 cm以上水を残して、ポンプが空運転しないように注意してください。

- ★電源プラグはコンセントから抜かないでください。

- ★この方法は機器の外のふろ配管に保温材や凍結予防ヒーターなどで、充分な保温(加温)処理を施さないと、配管内の水が、凍結して循環できなくなり、ふろ側の凍結予防運転機能が充分発揮されません。そのため機器が破損することがあります。

水抜きによる方法

- ★長期使用しないときや、冬期、水道水が凍結するような地域では、必ず水抜きによる凍結予防をおこなってください。

- 必ず給湯側、ふろ側とも水抜きしてください。

水抜きする場合は、必ずふろ側から水抜きをしてください。

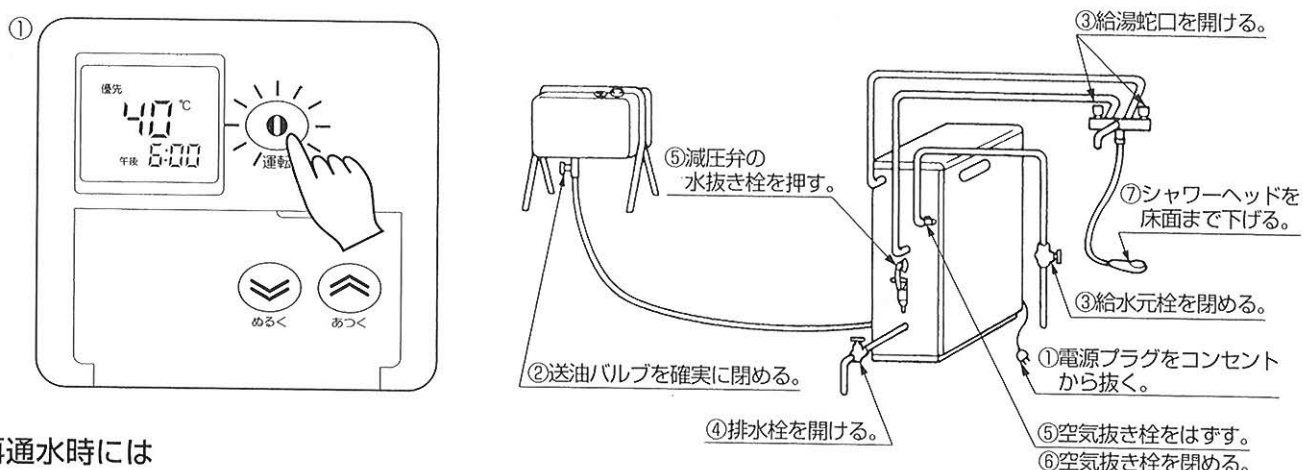
4 使い方

●ふろ側

- ①浴槽の水を排水してください。(浴槽の排水栓を抜いてください。)
- ②ふろリモコンの「運転スイッチ」を押して「入」にしてください。
※表示画面が「点灯」します。
- ③ふろリモコンの「おいだきスイッチ」を押して「入」にし、浴槽の循環金具から水(お湯)が出てくることを確認してください。
- ④排水が止まったら再度「おいだきスイッチ」を押して追いだき運転を中止し、もう一度「追いだきスイッチ」を押して「入」にして排水運転をし約1分間そのままにしておいてください。
- ⑤排水の確認後、「運転スイッチ」を押して「切」にしてください。
- ⑥循環口水抜き栓、循環ポンプ排水栓を開いてください。
- ⑦電源プラグをコンセントから抜いてください。

●給湯側 [WS-44HE (MG)]

- ①「運転スイッチ」を押して「切」にしてから電源プラグをコンセントから抜きます。
- ②油タンクの送油バルブを確実に閉めます。
- ③給水元栓を閉めた後、すべての給湯蛇口を開けます。
- ④排水栓を開けます。
- ⑤減圧弁の水抜き栓を押して、空気抜き栓をゆるめ、給湯機及び給湯蛇口までの配管の水を抜いてください。
- ⑥水抜きを確認後、空気抜き栓を閉めてください。
- ⑦シャワーヘッドを床面まで下げて、シャワーホースの水も抜いてください。



※再通水時には

- ①循環口水抜き栓が閉めてあるか確認してください。循環ポンプ排水栓が閉めてあるか確認してください。
- ②空気抜き栓が閉めてあるか確認してください。
- ③逃し弁が閉めてあるか確認してください。
- ④排水栓を閉めてください。
- ⑤給水元栓を開けて、すべての給湯蛇口から水が出ることを確認してください。
水が出ることを確認できたら、すべての給湯蛇口を閉めてください。
- ⑥油タンクの送油バルブを開けてください。
- ⑦電源プラグをコンセントに差し込んでください。
- ⑧循環ポンプへの呼び水をおこなってください。
(詳しくは16ページ **循環ポンプへの呼び水** を参照してください。)
- ⑨「運転スイッチ」を押して「入」にすると運転できます。

4 使い方

●給湯側 [WS-44HE (S)・WS-44HE (F)・WS-44HE (FF)]

- ①「運転スイッチ」を押して「切」にしてから、電源プラグをコンセントから抜きます。
- ②油タンクの送油バルブを確実に閉めます。
- ③給水元栓を閉めた後、すべての給湯蛇口を開けます。給水・給湯配管上の逃し弁のレバーを上方へ引き上げます
- ④排水栓を開き、空気抜き栓をゆるめ、給水配管上に取り付けられている減圧弁の水抜き栓を押して、給湯機及び給湯蛇口までの配管の水を抜いてください。
- ⑤水抜きを確認後、空気抜き栓を閉めてください。
- ⑥シャワーヘッドを床面まで下げて、シャワーホースの水も抜いてください。

※再通水時には

- ①循環口水抜き栓が閉めてあるか確認してください。循環ポンプ排水栓が閉めてあるか確認してください。
- ②空気抜き栓が閉めてあるか確認してください。
- ③給水・給湯配管上の逃し弁を閉めてください。
- ④排水栓を閉めてください。
- ⑤給水元栓を開けて、すべての給湯蛇口から水が出ることを確認してください。
水が出ることを確認できたら、すべての給湯蛇口を閉めてください。
- ⑥油タンクの送油バルブを開けてください。
- ⑦電源プラグをコンセントに差し込んでください。
- ⑧「運転スイッチ」を押して「入」にすると運転できます。

— お願い —

寒冷時の運転開始時について

運転する前に給湯蛇口を開き水が連続して出ることを確認してください。水の出が悪い時や、水の出ない時は、凍結していますので運転をしないで、溶けるのを待って水の出が正常になってから運転してください。

使用上の注意

- 1 排気口や、排気筒、及び排気筒(給排気筒)トップは高温です。やけどに注意してください。
- 2 みだりに飲用に用いないでください。
使用水の水质・配管材料の劣化、水あかなどにより水质が変わることがあります。なお、熱交換器や配管内にたまっていた水は飲用又は調理用に用いないでください。
- 3 使用中、水道の元栓を閉めたりしないでください。
- 4 浴槽の水位が自然に上昇するときは、熱交換器の湯が漏れているおそれがあります。このようなときは直ちに使用を中止して、販売店に連絡をしていただき、点検、修理を受けてください。
- 5 給湯機やリモコンには水をかけたりしないでください。
- 6 燃料配管及び水道配管(給湯配管)からの漏れがあるかどうか注意してください。
- 7 給湯機の上や周囲に可燃物や危険物を置いたり、近づけたりしないでください。
- 8 雷が発生したら、電源プラグをコンセントから抜いてください。
この給湯機は、雷に対する安全機構を備えていますが、落雷の条件によっては、間々、給湯機が故障することがあります。
雷が発生したら、電源プラグをコンセントから抜いておいてくださると安全です。
- 9 浴槽の循環口は、タオルなどでふさがらないでください。
- 10 給湯やシャワーを使用中に他の給湯箇所でも多量のお湯を使用しますと湯温が急激に変化することがありますので注意してください。
- 11 シャワーを使用する場合は、必ず手でお湯の温度を確かめてから使用してください。やけどのおそれがあります。
- 12 ふろ運転をしたとき、給湯温度設定は最高温度になりますので、やけどに注意してください。
- 13 外出するときは必ず「運転スイッチ」を押して「切」にしてください。
- 14 硫黄、酸、アルカリを含んだ入浴剤や洗剤は使用しないでください。また、塩分や硬度の高い水质(温泉など)では使用しないでください。熱交換器が腐食することがあります。
- 15 塩素系のカビ洗浄剤や酸性の浴室用洗浄剤、消臭剤または塩分などが、機器やふろリモコンにかかった場合はすぐに十分な水洗いをしてください。
- 16 給湯機を使用する場合は、日常の点検・手入れはもちろん、必ず2年に1回程度定期点検を受けてください。

長期間使用しないとき

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜くとともに、機器内の水抜き処置をしてください。

[32～34ページ] **水抜きによる方法** 参照]

5 安全装置

安全装置が作動すると、自動消火し、「エラー表示[E]」が「点滅」します。「エラー表示」が「点滅」して運転しない時は、お買い求めの販売店までご連絡ください。

安全装置が作動した場合の再セットの方法

「運転スイッチ」を一旦押して「切」にして約5秒後に再び押して「入」にしてください。

燃焼制御装置

何らかの原因で点火に失敗したときや、燃焼中に消火したとき、または燃焼光線を受光しなくなったときは、異常を感知して燃料を遮断し、給湯機の運転が停止します。警報表示は「E06」または「E07」が「点滅」します。異常の原因を取り除いてください。(詳しくは41ページ **9 故障・異常の見分け方と処置方法** をお読みください。)

水位警報装置(空だき防止装置)

熱交換器内の水位が低下したときや断水等で熱交換器内の圧力が低下したことを圧力スイッチが検出したときはバーナーは運転しません。警報表示は「E01」が「点滅」します。この場合は給水元栓を全開にした後給湯蛇口を開いて、水が出ることを確認した後給湯蛇口を閉めてください。給水後「運転スイッチ」を押し直してください。

対震自動消火装置

運転中に給湯機本体が強い地震や衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために運転を停止させる安全装置です。警報表示は「E05」が「点滅」します。

地震によって作動した場合は、設置場所へ行き、周囲の可燃物、機器の損傷、油漏れ、水漏れ、給排気筒の外れなど異常がないことを確認してから、再セットしてください。

温水温度自動制御装置

電子式…サーミスタとコントローラーにより、給湯温度を設定温度に制御し、熱交換器内部の湯温を100℃未満に保持します。

5 安全装置 6 その他の装置

温水温度自動制御装置(過熱防止装置)

機械式…温水バイメタルスイッチにより熱交換器内部の温度が異常温度まで上昇しますと、バーナーは自動的に消火します。警報表示は「E32」が「点滅」します。異常、故障の原因を取り除いてください。

電動機過負荷保護装置

循環ポンプに異物がかんだりした場合などで、循環ポンプが異常に過熱した場合に循環ポンプの運転を自動停止します。

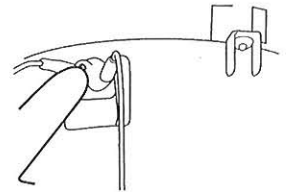
停電安全装置

運転中に停電や電源プラグを抜くなど、電源が切れたときは、自動的に運転を停止します。再通電後「E2F」が「点滅」します。運転を再開したい場合は「運転スイッチ」を押して「入」にしてください。

6 その他の装置

熱交換器バイメタルスイッチ

温度調節器の故障などで、熱交換器内の湯の温度が異常温度まで上昇すると、電磁ポンプが停止して自動的に消火します。「E32」が「点滅」します。異常、故障の原因を取り除いてください。



お願い

- ★この安全装置は「運転スイッチ」での再セットだけでは運転できません。熱交換器に取り付けてある、熱交換器バイメタルスイッチのリセットボタンを押してから、「運転スイッチ」を押し直してご使用ください。
- ★熱交換器の表面が高温になっていることがありますので熱交換器バイメタルスイッチのリセットボタンを押す時は、熱交換器の表面に手などを触れないように注意してください。やけどをするおそれがあります。

温度ヒューズ

機器内の温度が異常に上昇したとき、電磁ポンプの運転を停止する装置です。警報表示は「E25」または「E27」が「点滅」します。

- ★この装置が作動した場合は、電源プラグをコンセントから抜き、お買い求めの販売店又はお近くの当社 **お客様相談窓口一覧** (別紙参照)まで修理依頼をしてください。

7 日常の点検・手入れ

点検、手入れのときの注意事項

- ★点検、手入れをおこなう前に、「運転スイッチ」を押して「切」にし、消火を確認してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ★作業の際は、手をけがしないように、手袋をはめてください。
- ★点検、手入れの際、次のことは絶対におこなわないでください。
 - ①対震自動消火装置の取り外し及び分解。 ②サーミスタの取り外し。
 - ③電磁ポンプの圧力調節。

使用のたびに

1 周囲の可燃物(危険物)

給湯機の周囲にガソリン、シンナーなどの危険物や紙などの可燃物を置いていないか確認してください。また燃えやすいものが落ちたり、ふれたりするおそれがないことを確認してください。

2 油漏れ、油のたまり、油のにじみ

日常、油タンクや送油経路から油漏れか、または油のたまり、油のにじみがあるかどうかを調べるよう習慣づけ、給油のときこぼれた灯油はよくふきとってください。万一油漏れによって油のたまり、油のにじみが生じているときは、運転を停止し原因をたしかめ、防漏処置をして油漏れがなくなったことを確認してから運転してください。

3 ゴム製送油管の点検、交換の目安(屋内設置の場合)… [WS-44HE (F)・WS-44HE (FF)]

送油管から油漏れがないか点検し、ホースバンドのゆるみがあれば締めなおしてください。また、亀裂などがあれば交換してください。

4 金属製送油管の点検、交換の目安(屋外設置の場合)… [WS-44HE (MG)・WS-44HE (S)]

送油管から油漏れがないか点検し、油漏れなどがあればねじの増し締めや交換をしてください。

5 水漏れ

熱交換器、浴槽、配管などから水漏れがないことを確認してください。水漏れがあれば防漏処置をしてください。

6 臭気、すす

燃焼中に異常な刺激臭がしたり、排気口または、排気筒及び排気筒(給排気筒)トップからすすが出ていないか確認してください。異常があれば販売店に連絡してください。

7 循環口フィルター

循環口フィルターの湯あかやごみを掃除してください。掃除後は必ず正しく取り付けてください。循環口フィルターが正しく取り付けられていなかったり、フィルターが破れた状態でふる運転をしないでください。機器の故障の原因になります。

1 箇月に1回以上

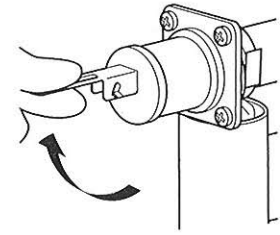
1 ほこり

給湯機の内部や底面(ベース)にたまったほこりや汚れは、異常燃焼したり、油がしみたりして思わぬ事故や危険をまねきます。たまっていれば掃除をしてください。また、給湯機の側面や背面の燃焼用空気取り入れ口がほこりでつまっていないかどうかを確認してください。

7 日常の点検・手入れ

2 逃し弁

逃し弁は配管の錆とか、水あかなどによって、弁が固着することがあります。弁が固着すると逃し弁の機能がなくなり、熱交換器が破損することがあります。約1箇月に1回の割合いで逃し弁のレバーを数回上方に引き上げて、弁が固着していないかを確認してください。



3 電源プラグ、コンセント

電源プラグ、コンセントにたまったほこりや汚れ、あるいは湿気が思わぬ事故や危険をまねきます。1箇月に1回以上、電源プラグ、コンセントの点検と掃除をしてください。又、電源プラグがコンセントに確実に差し込まれているか確認してください。差し込みがあまりいようであれば、差し込み直すか修理をしてください。コンセントを修理する際は電力会社の指定工事店に依頼してください。

6 箇月に1回以上

1 燃焼部(販売店へ依頼してください。)

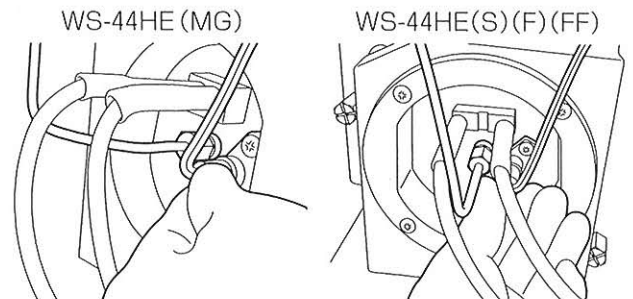
バーナーなど燃焼する部分に、異常なすすの付着がないか確認してください。付着していれば掃除をしてください。

2 点検を必要とするパッキン類(販売店へ依頼してください。)

水道配管(給湯配管)のパッキンの不具合による水漏れがないか確認してください。パッキンの不具合があれば交換処置をしてください。

3 炎検知装置

- ①キャビネット内のバーナーに向って正面にある炎検知装置の本体を持って取り外して受光面を柔らかい布で拭いてください。
- ②炎検知装置の受光面が汚れますと、給湯機が正常に運転しなくなります。



お願い

排気口や排気筒及び排気筒(給排気筒)トップの設置状況とか、風の強いところで使用する場合は、上記の日常の点検を1~2箇月に1回おこなう必要があります。



4 送風機

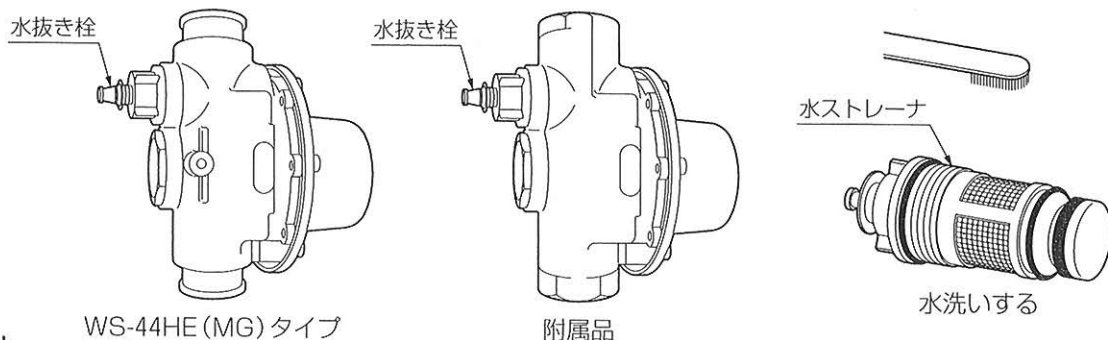
送風機に異常なほこりがたまっていないか確認してください。たまっていれば掃除してください。

1年に1回以上

1 減圧弁の水ストレーナの掃除 (販売店に依頼してください)

水ストレーナにごみが詰ると、蛇口からの水の出が悪くなります。減圧弁の水ストレーナを外して掃除をしてください。

- ①32ページ **水抜きによる方法** の、水抜き方法で熱交換器内の水を抜いてください。
- ②水抜き栓部分を左に回して取り外し、中の水ストレーナを引き抜いてください。
- ③水ストレーナをやわらかいブラシ等で水洗いしてください。
- ④運転再開は逆の手順でおこなって分解部分及び水抜き栓部分から水漏れがないことを確認してください。



2 給湯用熱交換器内

1年に1回以上は熱交換器内の水を排水してください。
(詳しくは32~34ページ **水抜きによる方法** をお読みください。)

3 排気筒 (給排気筒) や排気筒 (給排気筒) トップの接続部のゆるみ及び排気口や排気筒 (給排気筒) トップの周囲排気口や排気筒 (給排気筒) 及び排気筒 (給排気筒) トップの周囲には、樹木などの可燃物や危険物、障害物がないようにしてください。

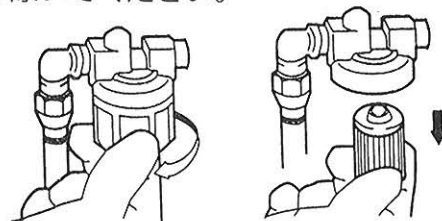
排気口や排気筒 (給排気筒) 及び排気筒 (給排気筒) トップがつまりますと燃焼が悪くなります。排気口や排気筒 (給排気筒) 及び排気筒 (給排気筒) トップがすすやごみなどでつまっていないか、接合部のはずれやゆるみはないか、固定の状態はどうか点検してください。また、積雪の多い地方では雪で排気口や排気筒 (給排気筒) トップがふさがれることがあります。積雪の多い地方では上記の日常点検を1箇月に1回以上おこなう必要があります。

4 油タンク (水抜きを含む)

油タンクに水やごみがたまりますと電磁ポンプなどの故障の原因となります。必ず1年に1回以上、油タンクを確認し、水やごみがたまっているようであれば、取り除いてください。

5 ストレーナ

ストレーナに水、ごみなどがたまりますと、電磁ポンプなどの故障の原因となります。必ず1年に1回以上、ストレーナを掃除してください。



8 定期点検

長期間で使用になりますと、機器の点検が必要です。機器の寿命をより長く、より良い燃焼で快適に安全にお使いいただくために、2年に1回程度、お買い上げ店、又は修理資格者〔(財) 日本石油燃焼機器保守協会 (TEL03-3499-2928) でおこなう技術管理講習会修了者 (石油機器技術管理士) など〕のいる店、当社支店・営業所などに点検依頼されることをおすすめします。

9 故障・異常の見分け方と処置方法

故障の原因と処置方法

使用中に異常がありましたら、修理を依頼される前に、下表により原因を調べて処置をしてください。
 ★原因のわからないときや、処置のむずかしいときは、お買い求めになった販売店にご連絡ください。

	現 象	原 因	処 置 方 法
運 転 開 始 時	●「運転スイッチ」を押して「入」にしても表示画面が「点灯」しない。	①電源プラグをコンセントに差し込んでない。	差し込んでください。
		②停電中。	停電復帰後再操作する。
	●「運転スイッチ」を押して「入」にするとすぐに警報状態。	①サーミスタの故障。	修理・交換してください。 ※
		②熱交換器に水がない。	給水してください。
	●送風機は回転するが点火しない。	①炎検知装置の故障。	修理・交換してください。 ※
		②電極の寸法が正常でない。	正常寸法に直してください。 ※
		③イグナイターの故障。	修理・交換してください。 ※
		④電源電圧の異常低下。	電力会社の指定工事店に連絡してください。
		⑤油タンクが空になっている。	給油し空気抜きをしてください。
		⑥送油経路内に空気が入っている。	空気抜きをしてください。
⑦ストレーナがごみで詰まっている。		掃除をしてください。	
⑧コントローラーの故障。		修理・交換してください。 ※	
燃 焼 中	●点火するがすぐ消えてしまう。	①炎検知装置の受光面が汚れている。	掃除をしてください。
		②送油経路内の空気抜きが不十分。	空気抜きをしてください。
	●電磁ポンプから異常音が出る。	①空気を吸い込んでいる。	空気抜きをしてください。
		②吸い込み側が何かで詰まっている。	掃除・交換をしてください。 ※
		③電磁ポンプ内にごみが詰まっている。	掃除・交換をしてください。 ※
	●燃烧音が異常である。	①燃烧量が多すぎる。	ノズル・電磁ポンプの交換をしてください。 ※
		②燃烧量が少なすぎる。	
		③排気筒及び排気筒(給排気筒)トップの取り付け不良。	正しく取り付けてください。 ※
	●途中で水になってしまう。又は充分温度上昇しない。	①給水・給湯・熱交換器サーミスタやフローセンサーの故障。	修理・交換してください。 ※
		②能力以上に給湯している。	給湯蛇口をしぼってください。
	●すすが出る。又はすすがたまる。	①送風機にほこりがたまっている。	掃除をしてください。
		②排気筒及び排気筒(給排気筒)トップの取り付け不良。	正しく取り付けてください。 ※
③燃烧量が多すぎる。		ノズル・電磁ポンプの交換をしてください。 ※	
運 転 停 止 後	●送油経路に油漏れがある。	①送油経路の接続部にゆるみが生じた。	締め直してください。
	●水漏れがある。	①雨水などが入った。	雨水から避けて設置してください。
		②熱交換器が水漏れを生じた。	修理・交換してください。 ※

※お買い求めの販売店に点検、手入りを依頼してください。

9 故障・異常の見分け方と処置方法

現象	原因	処置方法
ふろ運転時	●ふろ運転にしても循環しない。	①循環部に水漏れがある。 ※
		②循環口フィルターのつまり。
	●ふろの沸きが遅い。沸かない。	①循環口フィルターのつまり。
		②ふろ配管から放熱が多い。 ※

※お買い求めの販売店に点検、手入りを依頼してください。

故障かなと思ったら確認していただきたいこと

★次のような場合は故障ではありません。

こんな場合	理由
保温中ときどき循環ポンプが回る	浴槽のお湯の温度を検知するためときどき回ります。
お湯が白く濁って見える	これは水中に溶け込んでいた空気が熱せられ、大気圧まで急速に減圧されることで細かい泡となって出てくる現象です。ビール、サイダーなどの泡と似た現象であり、汚濁とは違ってまったく無害なものです。しばらくお湯を使っていると濁りはなくなります。
寒い日排気部から白煙が見える	外気温が低いときには排気ガスの水蒸気が白煙となりますが、故障ではありません。
冬期など寒いときおいだきのポンプが自動的に動く	凍結破損予防のため、循環ポンプの自動運転をおこないます。
給湯栓を開いてもすぐお湯が出てこない	機器から給湯栓までは距離がありますので、お湯が出てくるまでには少し時間がかかります。
燃焼停止後しばらくファンの回転音がある	再使用時の点火をより早くするためと未燃ガスを排出するためしばらく回転しています。
時刻表示が「OFF」の点滅表示になっている	停電後、再通電すると表示画面の時刻表示が「OFF」になります。
給湯温度設定を変えたら給湯温度設定が点滅表示になった	給湯温度の方が給湯温度設定より高くなったため注意を喚起するために給湯温度の目安を点滅表示しています。

故障かなと思ったらここを調べてください

こんな場合	理由
警報表示が点滅する	「運転スイッチ」を押して「切」にし約5秒後、もう一度「入」にしてください。それでも点滅するときは故障ですので、お買い上げの販売店か、当社の支店・営業所へご連絡ください。
「沸きあげ保温スイッチ」を押しても動かない	給水元栓が全開になっていますか。
	断水していませんか。

9 故障・異常の見分け方と処置方法

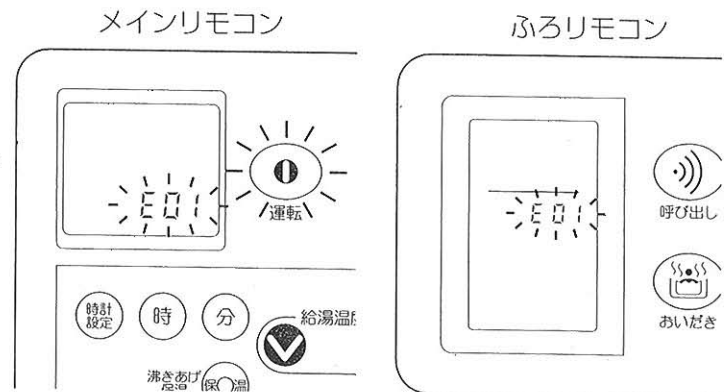
こんな場合	理 由
お湯が出ない	給水元栓が全開になっていますか。
	断水していませんか。
	給湯栓が充分開いていますか。
高温のお湯が出ない・低温のお湯が出ない	給湯温度調節は適切ですか。(22ページ参照)
浴槽の水があつい(ぬるい)	ふろ温度の設定は適切ですか。(29ページ参照)

※以上のことをお調べのうえ、なお異常のあるときはお買い求めの販売店か別紙の **お客様相談窓口一覧** へご連絡ください。

リモコンの警報(エラー)表示による故障診断

給湯機のリモコンには自己診断機能がついています。給湯機が故障すると表示画面の時刻表示部に下表のような警報表示(E)が「点滅」し、E01、E02、E03、E04、E05、E06、E07、E08、E24、E32 は、メインリモコンの「運転スイッチ」(緑)も「点滅」します。

- 警報表示が「点滅」したときは、※の場合または処置方法にて確認した後直らなければお買い求めになった販売店か、別紙の **お客様相談窓口一覧** などに修理を依頼してください。その際は、表示されている警報表示もお知らせください。



警報表示	内 容	処 置 方 法
E01	圧力スイッチの作動	断水していませんか。 給水元栓と給湯蛇口を全開にし給水してください。
E02	擬似火災、炎検知装置の故障	※
E03	給湯サーミスタの故障	※
E04	熱交換器サーミスタの故障	※
E05	対震自動消火装置が作動しました。	「運転スイッチ」を一旦押して「切」にし、再セットしてください。
E06	途中消炎です。	給油してください。
E07	着火ミスです。	油切れならば給油してください。 P15 給油のしかた に従って送油経路の空気抜きをおこなった後、再度「運転スイッチ」を押して「入」にしてください。
E08	風量異常(送風機の故障)	※

警報表示	内 容	処 置 方 法
E 13	ふろサーミスタの故障	※
E 14	ふろサーミスタが高温検知しました	浴槽の湯温が高すぎないか確認してください。(約52℃以上)
E 18	ふろ温度上昇しない 循環ポンプ90分以上連続運転	浴槽水が循環しているか確認してください。 ※
E 24	給水サーミスタの故障	※
E 32	熱交換器バイメタルスイッチ・温水バイメタルスイッチの作動	熱交換器内は満水になっていますか。 ※
C 21	給油スイッチ(別売品)の作動	油タンクの油量を確認し、なければ給油してください。
C 23	ふろの凍結予防運転中です	

★「**C**」の点滅表示は故障ではありません。注意を喚起するためのものです。

★以上のことをお調べのうえ、なお異常のあるときはお買い求めの販売店か、別紙の **お客様相談窓口** **一覧** へご連絡ください。

—お願い—

- 再セットは、「運転スイッチ」を押して「切」にしてから約5秒後に「運転スイッチ」を押して「入」にしてください。これをしませんでしたと再セットできないことがあります。
- 熱交換器バイメタルスイッチの再セットは電源プラグをコンセントから抜いてから熱交換器に取り付けてある熱交換器バイメタルスイッチのリセットボタンを押してください。37ページ **6** **その他の装置** 参照ください。
- 「運転スイッチ」を押しても表示画面が点灯しない場合は、機器内蔵の漏電保護装置が作動している場合があります。
この場合、電源プラグをコンセントからいったん抜き、再度電源プラグをコンセントへ差し込んでください。
この操作をしても改善されない場合は、お買い求めの販売店か、別紙の **お客様相談窓口一覧** などに点検を依頼してください。

10 部品交換のしかた

短期間に消耗する部品は特にありませんが、ノズル、ストレーナなどの交換部品が必要な場合は、お買い求めになった販売店にご相談ください。

- 部品は必ず純正部品をお使いください。
- 不完全な修理は危険です。修理をお受けになる場合は、(財)日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる販売店等で修理されることを推奨します。

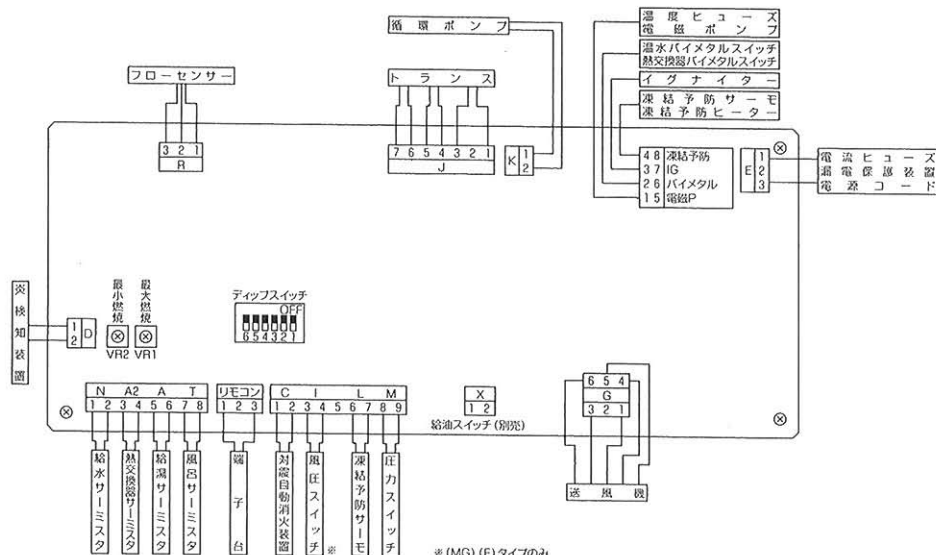
仕様

型式の呼び(タイプ区分)		WS-44HE (MG)	WS-44HE (S)
用途		家庭用・給湯用・追いだき用	
種類		圧力噴霧式・1缶2水路式・強制循環式・貯湯式急速加熱形・屋外用開放形	
		水道直結式(減圧弁・逃し弁内蔵)	水道直結式(減圧弁・逃し弁必要)
点火方法		高圧放電方式	
使用燃料		灯油(JIS 1号灯油)	
燃料消費量		5.02L/h	
湯沸効率	ふろ側	76.3%	
連続給湯効率	給湯側	85.7%	
最大熱出力	給湯側	44.3kW	
熱交換器容量	ふろ側	0.7L	
	給湯側	7.9L	
最高圧力		0.2MPa	
伝熱面積	ふろ側	0.25m ²	
	給湯側	0.72m ²	
外形寸法		高さ983mm、幅560mm、奥行260mm	高さ1,212mm(専用排気筒含む)、幅260mm、奥行560mm
質量		約44kg	約39kg
電源電圧及び周波数		100V 50/60Hz	
定格消費電力	給湯使用時	点火時80/80W、燃焼時140/140W	点火時75/75W、燃焼時125/125W
	ふろ使用時	循環ポンプ運転時105/135W	
	給湯・ふろ同時使用時	点火時175/205W、燃焼時235/265W	点火時170/200W、燃焼時220/250W
排気温度		260℃以下	
排気筒の呼び径		—	—
騒音レベル		54dB (A)	53dB (A)
ノズル	噴霧量	1.1GPH	
	スプレーパターン	ホコ一	
	噴霧角度	80度	
循環管取付口径		R1/2 (PT1/2)	
基準浴槽		並2人用(200~220L)	
電流ヒューズ		10A	
温度ヒューズ		150℃	
安全装置		対震自動消火装置、水位警報装置(空だき防止装置)、燃焼制御装置、 温水温度自動制御装置(過熱防止装置)、停電安全装置、電動機の過負荷保護装置	
その他の装置		熱交換器バイメタルスイッチ、温度ヒューズ	
付属品	金属製送油管(1本)、呼び水用ホース(1本)、 リモコン(一式)、リモコンコード(8m)、ふろリモコン(一式)、ふろリモコンコード(5m)		
	エルボ(2個)		専用排気筒(1個)、減圧弁(1個)、逃し弁(2個)

仕様

型式の呼び(タイプ区分)	WS-44HE (F)	WS-44HE (FF)
用途	家庭用・給湯用・追いだき用	
種類	圧力噴霧式・1缶2水路式・強制循環式・貯湯式急速加熱形・水道直結式(減圧弁・逃し弁必要) 屋内用半密閉式強制排気形	
点火方法	屋内用密閉式強制給排気形	
使用燃料	高圧放電方式 灯油(JIS 1号灯油)	
燃料消費量	5.02L/h	
湯沸効率	ふろ側	76.3%
連続給湯効率	給湯側	85.7%
最大熱出力	給湯側	44.3kW
熱交換器容量	ふろ側	0.7L
	給湯側	7.9L
最高圧力	0.2MPa	
伝熱面積	ふろ側	0.25m ²
	給湯側	0.72m ²
外形寸法	高さ1,192mm(専用サイレンサー含む)、幅260mm、奥行560mm	高さ1,152mm(専用サイレンサー含む)、幅260mm、奥行560mm
質量	約39kg	約39kg
電源電圧及び周波数	100V 50/60Hz	
定格消費電力	給湯使用時	点火時75/75W、燃焼時125/125W
	ふろ使用時	循環ポンプ運転時105/135W
	給湯・ふろ同時使用時	点火時170/200W、燃焼時220/250W
排気温度	260℃以下	
給排気筒の型式の呼び	—	FFP-47
排気筒の呼び径	φ106	—
給排気筒の呼び径	—	D80
給排気筒の壁貫通部の孔径	—	120mm
騒音レベル	51dB(A)	51dB(A)
ノズル	噴霧量	1.1GPH
	スプレーパターン	ホコ—
	噴霧角度	80度
循環管取付口径	R1/2(PT1/2)	
基準浴槽	並2人用(200~220L)	
電流ヒューズ	10A	
温度ヒューズ	150℃	
安全装置	対震自動消火装置、水位警報装置(空だき防止装置)、燃焼制御装置、 温水温度自動制御装置(過熱防止装置)、停電安全装置、電動機の過負荷保護装置	
その他の装置	熱交換器バイメタルスイッチ、温度ヒューズ	
付属品	ゴム製送油管(1本)、ホースバンド(小)(2個)、呼び水用ホース(1本)、リモコン(一式)、 リモコンコード(8m)、ふろリモコン(一式)、ふろリモコンコード(5m)、減圧弁(1個)、逃し弁(2個)、サイレンサー(1個) 排気筒トップ(1個)、アルミテープ(1枚)	
		標準給排気筒セット

配線図



12 アフターサービス

保証について

- 添付しております保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容をご確認のうえ販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。
- ★保証期間はご購入の日より1年間です。

修理を依頼するとき

- ⑨ 故障・異常の見分け方と処置方法(41ページ)に従ってお調べください。直らないときは、ご使用中を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから、ご購入の販売店にご連絡ください。
- ご連絡いただきたい内容は、次の通りです。
 - ①品名…ふろがま付石油給湯機(高圧力型石油給湯機付ふろがま)
 - ②型式の呼び…(例) WS-44HE (MG)
 - ・型式名は、扉に貼ってある表示板に記載してあります。
 - ③お買上げ年月日
 - ④故障の状況(できるだけ具体的に)
 - ⑤おなまえ、おところ、電話番号
- 修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。
- 保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
- 修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

この取扱説明書及び別冊の工事説明書・保証書と本体に表示されている禁止事項・注意事項および通常使用に反して使用された場合の故障・事故につきましては保証いたしません。

補修用性能部品について

- ★高圧力型石油給湯機付ふろがま(温水ボイラー)の補修用性能部品の保有期間は製造打切り後7年です。
 - 補修用性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。

転居される場合

- 本機は電源周波数50、60Hzの区分はありません。
- ★高地(1,000～1,300 m)への転居、あるいは高地からの転居は再調整が必要ですので、別紙の **お客様相談窓口一覧** までご相談ください。
- ★但し標高1,300 m以上の高地では使用できません。

お願い

故障、破損したら使用しないでください。不完全な修理や改造は、感電や火災の原因になります。

故障・修理の際の連絡先

- アフターサービスについてわからない場合は、ご購入の販売店、または、もよりの **お客様相談窓口一覧** (別紙参照)までお問い合わせください。

13 据付け

据付け工事は販売店に依頼する

据付けや移動工事は販売店または据付け業者に依頼し、お客様ご自身では、おこなわないでください。

据付け場所の選定及び標準据付け事例

給湯機の据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書の「**1**安全のために必ずお守りください」をお読みになり、お買い求めの販売店又は据付け業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」につきましては、工事説明書の「**1**安全のために必ずお守りください」を参照してください。

騒音防止について

設置場所の選び方次第で騒音は大きく変わります。騒音公害とならないよう充分配慮して設置場所を選択してください。

据付け工事後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書の「**1**安全のために必ずお守りください」をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据付けられているかを確認してください。

試運転

試運転は、販売店または据付け業者とご一緒に必ずおこなってください。

運転準備

1 給油及び送油経路の空気抜きと油漏れの確認

- ①油タンクへの給油は油量計を見ながらおこなってください。
- ②送油経路内の空気抜きをおこなってください。
(詳しくは15ページ **燃料切れの注意と空気抜きの方法** をお読みください。)
- ③送油経路に油漏れのないことを確認してください。

2 給水及び水漏れの確認

- ①給湯蛇口を開き水の出ることを確認してください。
- ②配管経路からの水漏れのないことを確認してください。

3 電源プラグの差し込みの確認

電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていることを確認してください。

運転—給湯側—

1 運転開始手順

- ①油タンクの送油バルブを開けます。
- ②「運転スイッチ」を押して「入」にします。
(詳しくは16ページ **運転開始前の準備と確認** ・20ページ **運転方法(給湯)** をお読みください。)

13 据付け

2 初期運転時の異常現象

電磁ポンプ内に空気を吸込むと運転時に異常音を発生し、正常に燃料を噴霧しません。このとき、空気抜きをしないと、数回の点火操作を必要とする場合があります。

(詳しくは15ページ **燃料切れの注意と空気抜きの方法** をお読みください。)

3 正常運転の目安

前記の初期運転時の異常現象もなく、排気口及び排気筒(給排気筒)トップの先端から黒煙など出ていないことを確認してください。

排気口や排気筒及び排気筒(給排気筒)トップの設置条件などにより、燃焼用空気量が不適正の場合や給湯機側面の燃焼用空気取り入れ口がふさがれている場合は、異常発煙や振動燃焼を生ずることがありますので、上記の現象が生じないことを確認してください。

運転—ふろ側—

1 運転開始手順

①「リモコン」の「運転スイッチ」を押して「入」にしてください。

②浴槽に水が入っていることを確認してから、「リモコン」の「沸きあげ保温スイッチ」を押して「入」にしてください。

③「ふろリモコン」の「ふろ温度調節スイッチ」でふろ温度を設定してください。

(詳しくは29ページ **おふろの沸きあがり温度の換えかた** をお読みください。)

2 初期運転時の異常現象

●沸きあげ保温運転の操作をしても、ふろの湯が循環しないときは、再度循環ポンプに呼び水(給水)をしてください。

(詳しくは16ページ **循環ポンプへの呼び水** をお読みください。)

3 正常運転の目安

●浴槽の湯温が設定温度に達すると、自動的に循環ポンプも停止します。以後、設定温度を維持するように自動的に保温運転に入ります。

★沸きあげ保温運転は「沸きあげ保温スイッチ」を「入」にしてから4時間(保温時間スイッチで変更できます)で自動停止します。

その他の確認事項

●リモコンの表示画面に **優先** が「点灯」している側のリモコンで、給湯温度調節が可能です。

(但しふろ運転中はどのリモコンにも **優先** 表示はできません。)

★「ふろリモコン」の「優先スイッチ」を押すと **優先** 表示が切り替わり、新しく **優先** 表示が「点灯」した側のリモコンで給湯温度調節ができることを確認してください。

お願い

試運転終了後、給湯機を引き続き使用しない場合は、32ページ「凍結予防・水抜きによる方法」に従って、ふろ側、給湯側ともに水抜き処置をおこなって、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

凍結による給湯機の破損や予想しない事故の原因になります。

消火の手順


1 運転停止手順

①「運転スイッチ」を押して「切」にします。

②油タンクの送油バルブを閉めます。

(詳しくは20ページ **運転方法(給湯)** をお読みください。)

WS-44HEシリーズ 取扱説明書

<p>愛情点検</p> 	<p>★長年ご使用の石油給湯機の点検を!</p> <p>●石油給湯機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後7年です。</p>	
<p>ご使用の際 このようなことは ありませんか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●油もれする。 ●運転しない。 ●運転中排気筒から黒煙が出る。 ●お湯が出ない。 ●運転中異常な音がする。 ●その他の異常・故障がある。 	<p>ご使用 中止</p> <p>故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検・修理をご依頼ください。</p>

お客様へ…おぼえのために記入されると便利です。

型 式		お買上げ年月日	年	月	日
お買上げ店名	(電話番号) () —				

株式会社 トヨトミ

本 社 名古屋市瑞穂区桃園町5番17号
〒467-0855 電話 <052>822-1144
F A X <052>822-2742

